

ECL2-NV1G 形
CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応
ゲートウェイユニット
FB ライブラリ リファレンスマニュアル
（GX Works3 用）

対象ユニット:

ECL2-NV1G

《目次》

1. 概要	5
1.1. FB ライブラリ概要	5
1.2. FB ライブラリ機能内容	5
1.3. システム構成例	6
1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定	7
1.5. グローバルラベルの設定	11
1.6. インタロックプログラムの作成	12
1.7. 関連マニュアル	13
1.8. お願い	13
2. FB ライブラリ詳細	14
2.1. P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R (日時設定)	14
2.2. P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R (カメラ位置移動)	21
2.3. P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R (カメラ生存チェック)	31
2.4. P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R (カメラ位置取得)	39
2.5. P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R (イベント送信)	48
2.6. P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R (イベント受信)	57
2.7. P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R (CC-Link エラー履歴取得)	67
2.8. P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R (ONVIF エラー履歴取得)	78
2.9. P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R (ユニットエラー履歴取得)	88
2.10. P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R (イベントハンドリング履歴取得)	98
2.11. P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R (ソケット通信 送信)	110
2.12. P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R (ソケット通信 受信)	119
付録 1. FB ライブラリ使用例	127
付録 1.1. システム構成例	127
付録 1.2. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定	128
付録 1.3. グローバルラベルの設定	130
付録 1.4. 使用デバイス一覧	130
付録 1.5. プログラム	134
付録 1.5.1. P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R (日時設定)	134
付録 1.5.2. P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R (カメラ位置移動)	135
付録 1.5.3. P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R (カメラ生存チェック)	136
付録 1.5.4. P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R (カメラ位置取得)	137
付録 1.5.5. P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R (イベント送信)	138
付録 1.5.6. P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R (イベント受信)	140
付録 1.5.7. P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R (CC-Link エラー履歴取得)	142
付録 1.5.8. P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R (ONVIF エラー履歴取得)	145
付録 1.5.9. P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R (ユニットエラー履歴取得)	148
付録 1.5.10. P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R (イベントハンドリング履歴取得)	151
付録 1.5.11. P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R (ソケット通信 送信)	154
付録 1.5.12. P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R (ソケット通信 受信)	155



付録 2. 1 枚のマスタ・ローカルユニットに接続された 2 台のゲートウェイユニットに FB を使用方法	157
付録 2.1. 必須設定	158
付録 2.2. 基本設定	159
付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用方法	162
付録 3.1. 必須設定	163
付録 3.2. 基本設定	164
付録 3.3. グローバルラベルの設定	167
付録 3.4. ライブラリのコピー (複製)	168
付録 3.5. デバイスの置き換え	169
付録 4. エラーコード一覧	170
付録 4.1. FB エラーコード一覧	170
付録 4.2. 機器エラーコード一覧	172



リファレンスマニュアル改訂履歴

リファレンスマニュアル番号	改訂日	改訂内容
50CM-D180268-A	2017/04/14	新規作成



1. 概要

1.1. FB ライブラリ概要

本 FB ライブラリは、ECL2-NV1G 形 CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット(以下、ゲートウェイユニットと略します)を使用するための FB ライブラリです。

1.2. FB ライブラリ機能内容

FB 名称 (※1)	内容
P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R	ゲートウェイユニットに日時データ(時計情報)を設定します。(※2)
P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R	指定したカメラの撮影方向を登録した位置に向けます。
P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R	指定したカメラの生存チェックをおこないます。
P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R	指定したカメラの現在位置番号を取得します。
P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R	イベントを送信します。
P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R	受信しているイベントの内容を読み出します。
P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R	CC-Link システムのエラー履歴を取得します。
P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R	ONVIF ネットワークのエラー履歴を取得します。
P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R	ユニットのエラー履歴を取得します。
P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R	イベントハンドリングの実行履歴を取得します。
P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R	ONVIF ネットワーク上の機器へデータを送信します。(※3)
P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R	ONVIF ネットワーク上の機器から受信したデータを読み出します。(※3)

※1 FB 名称の末尾には“_00A”などの FB バージョン情報が表示されますが、本リファレンスマニュアルでは記載しません。

※2 ゲートウェイユニットに日時データが正しく設定されていない場合、ONVIF ネットワークを介した動作が正常におこなわれない場合があります。

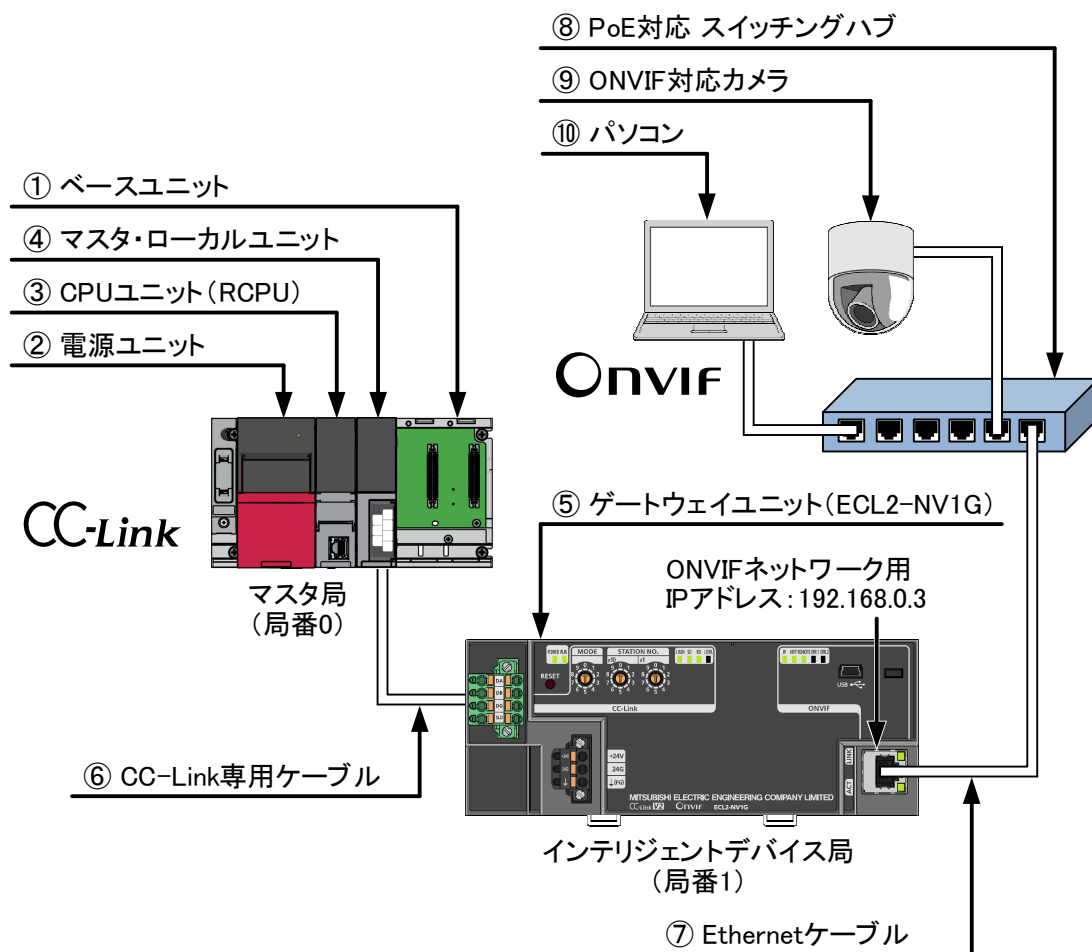
ゲートウェイユニットの起動後、他の FB の実行に先だって、「P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R」を実行してください。

※3 通信相手がソケット通信機能を有する機器(パソコンなど)である必要があります。



1.3. システム構成例

(1) MELSEC iQ-R シリーズのシステム構成



No.	機器名	説明
①	CC-Link システムマスタ局	ベースユニット
②		電源ユニット
③		CPU ユニット
④		CC-Link システムマスタ・ローカルユニット
⑤	ゲートウェイユニット	CC-Link システム/ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット
⑥	CC-Link 専用ケーブル	CC-Link 用ケーブル
⑦	Ethernet ケーブル	カテゴリ 5e 以上の Ethernet ケーブル
⑧	PoE 対応スイッチングハブ	Power over Ethernet 対応 スイッチングハブユニット ※ゲートウェイユニットは非 PoE ポートに接続してください。
⑨	ONVIF 対応カメラ	ONVIF 規格準拠ネットワークカメラ
⑩	パソコン	Windows パソコン



1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定

項「1.3. システム構成例」に基づく CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定を説明します。
GX Works3 を用いて、以下の項目を設定します。

(1) 必須設定

項目	内容
局種別	「マスタ局」を選択します。
モード設定(※1)	マスタ・ローカルユニットのモードを設定します。 本項の例では、「リモートネット-Ver.2 モード」を設定します。
伝送速度	CC-Link の伝送速度を設定します。 本項の例では、「10Mbps」を選択します。

※1 「リモートネット-Ver.1 モード」または「リモートネット-Ver.2 モード」を選択してください。



(2) 基本設定

① ネットワーク構成設定

項目		内容
局種別		マスタ局に接続するスレーブ局の局種別を設定します。 本項の例では、「インテリジェントデバイス局」を設定します。
バージョン		本項の例では、「Ver. 2」を設定します。
占有局数		本項の例では、「1 局占有」を設定します。
拡張サイクリック設定		本項の例では、「8 倍占有」を設定します。
リモート局点数		本項の例では、「128 点」を設定します。
予約局／エラー無効局		「設定なし」を設定します。
インテリジェント用 バッファ指定 (ワード)	送信	本項の例では、「480」ワードを設定します。(※1)
	受信	本項の例では、「480」ワードを設定します。(※1)
	自動	変更不要です。(本 FB では使用しません)

※1 下表を参照し、トランジェント伝送を使用する FB で必要となるバッファのサイズ(ワード)より大きな値を設定してください。

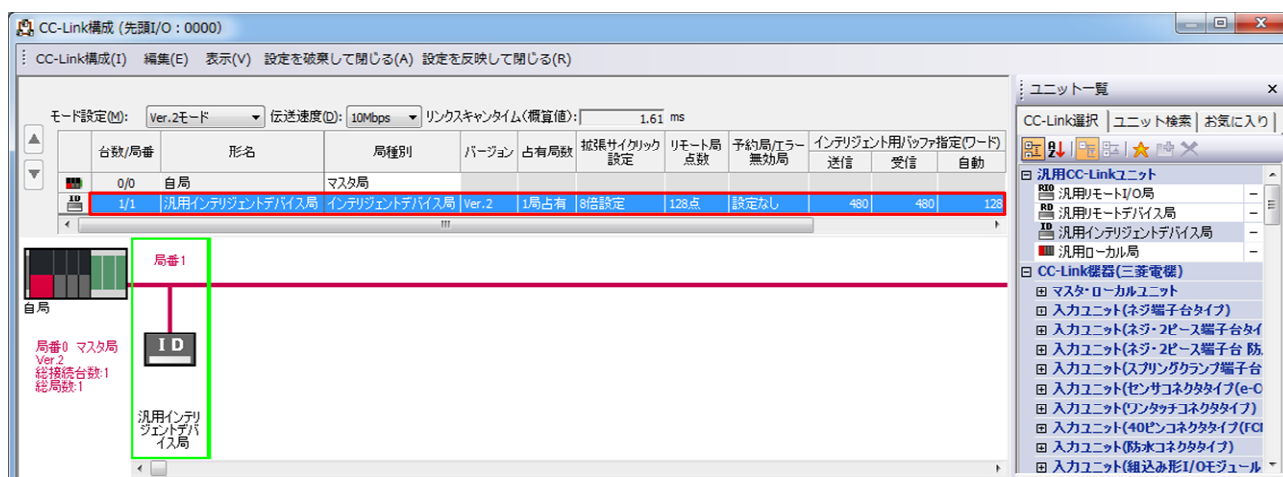
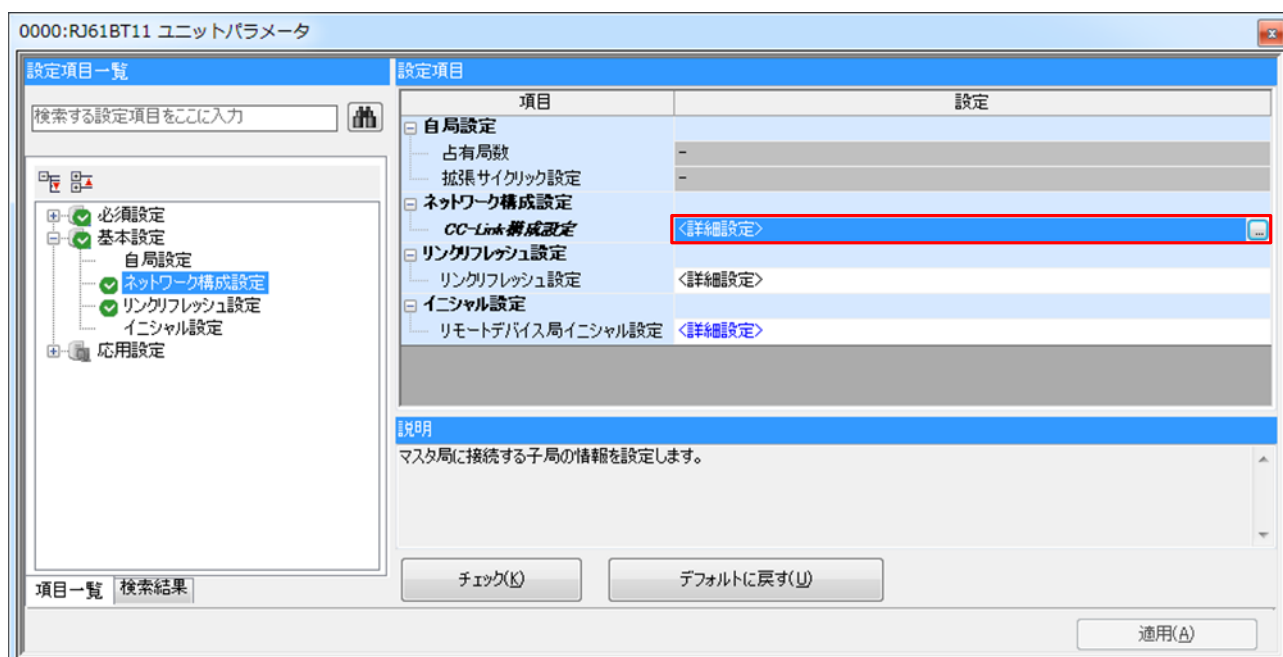
本 FB を使用した際に必要となる最大のバッファサイズは、送信 480 ワード、受信 480 ワードです。

インテリジェント用バッファ指定(ワード)で必要となる設定内容は以下のとおりです。

対象 FB ライブラリ	インテリジェント用バッファ指定(ワード)	
	送信	受信
P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R	128 ワード	
P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R		131 ワード
P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R		8 ワード×読み出し点数(1～50)
P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R		9 ワード×読み出し点数(1～50)
P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R		8 ワード×読み出し点数(1～50)
P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R		16 ワード×読み出し点数(1～25)
P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R	送信データサイズ(※2)+32 ワード	
P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R		受信データサイズ(※2)+32 ワード

※2 送信データサイズ、受信データサイズは、それぞれ 1～448 ワードの範囲で設定可能です。





② リンクリフレッシュ設定

項目	内容
特殊リレー(SB) リフレッシュデバイス	特殊リレー(SB)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「SB」、先頭に「00000」を設定します。
特殊レジスタ(SW) リフレッシュデバイス	特殊レジスタ(SW)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「SW」、先頭に「00000」を設定します。
リモート入力(RX) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート入力(RX)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「X」、先頭に「01000」を設定します。
リモート出力(RY) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート出力(RY)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「Y」、先頭に「01000」を設定します。
リモートレジスタ(RW _r) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW _r)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「W」、先頭に「00000」を設定します。
リモートレジスタ(RW _w) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW _w)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「W」、先頭に「00400」を設定します。

※ リンク側の点数は、使用するリモート入出力・リモートレジスタを確保するように設定してください。

No.	リンク側					CPU側				
	デバイス名	点数	先頭	最終		リフレッシュ先	デバイス名	点数	先頭	最終
-	SB	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	SB	512	00000	001FF
-	SW	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	SW	512	00000	001FF
1	RX	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	X	512	01000	011FF
2	RY	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	Y	512	01000	011FF
3	RW _r	256	00000	000FF	↔	指定デバイス	W	256	00000	000FF
4	RW _w	256	00000	000FF	↔	指定デバイス	W	256	00400	004FF
5					↔					



1.5. グローバルラベルの設定

本 FB を使用する際は、以下のグローバルラベルの設定が必要です。

グローバルラベルの設定方法を説明します。

- (1) ナビゲーションウィンドウのプロジェクトタブにある「グローバルラベル — Global」を選択します。

「グローバルラベル設定」の「簡易表示」を「詳細表示」に切り替えます。



- (2) M_RY リモート出力(RY)の設定をおこないます。

項目	内容
クラス	「VAR_GLOBAL」を選択します。
ラベル名	「M_RY」を入力します。
データ型	「ビット」を選択します。
割付け (デバイス / ラベル)	リンクリフレッシュに設定したリフレッシュデバイスの先頭「Y1000」に、インデックスレジスタ「Z9」を付加して入力します。本項の例では、「Y1000Z9」を設定します。

- (3) M_RWw リモートレジスタ(RWw)の設定をおこないます。

項目	内容
クラス	「VAR_GLOBAL」を選択します。
ラベル名	「M_RWw」を入力します。
データ型	「ワード[符号付き]」を選択します。
割付け (デバイス / ラベル)	リンクリフレッシュに設定したリフレッシュデバイスの先頭「W400」に、インデックスレジスタ「Z8」を付加して入力します。本項の例では、「W400Z8」を設定します。



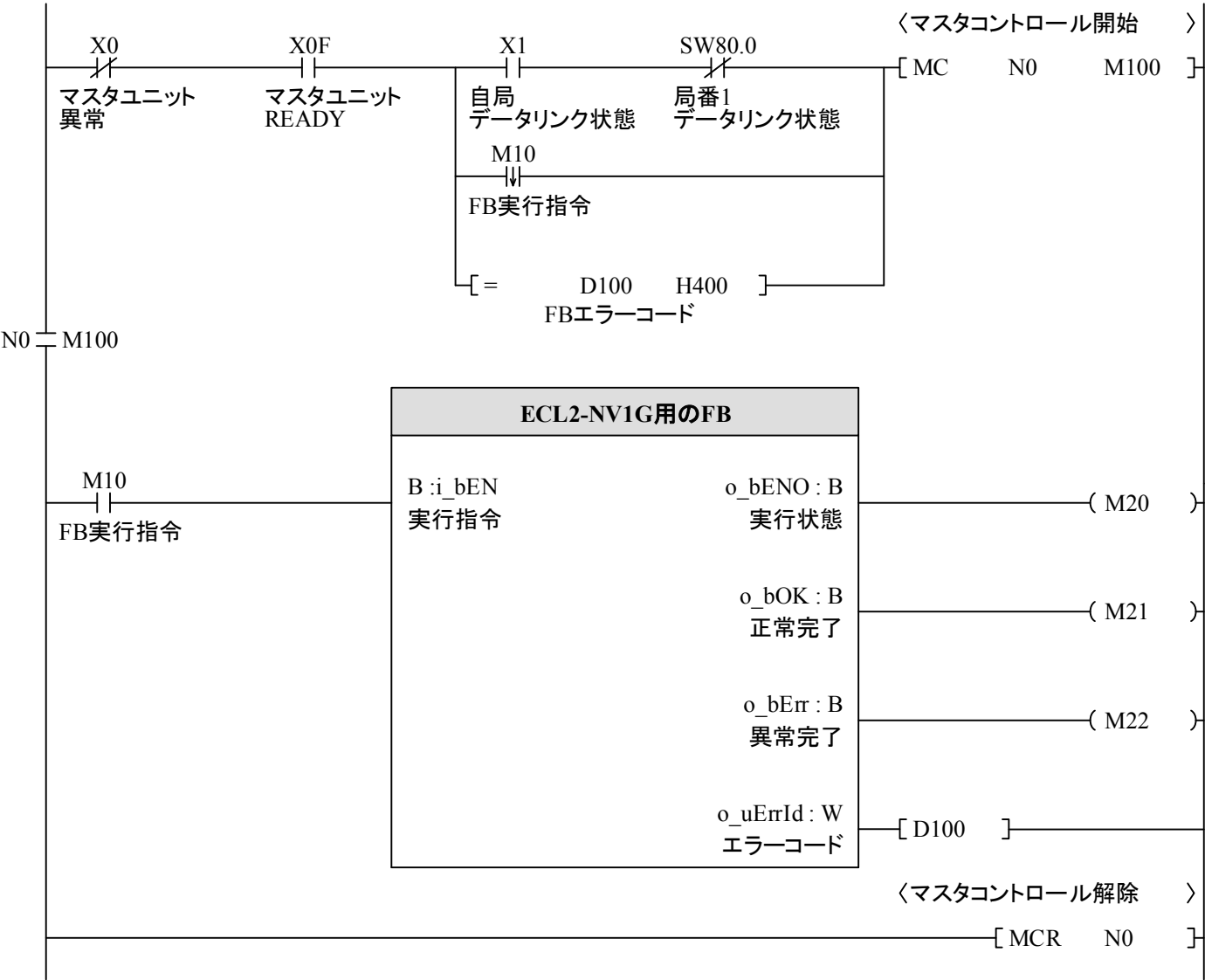
1.6. インタロックプログラムの作成

本 FB を使用する際は、インタロックプログラムの作成が必要です。以下にインタロックプログラムの例を示します。
(MC 命令と MCR 命令の間に該当する FB を設定してください。)

インタロックプログラムでは、下記のデバイスでインタロックをとってください。

- ・各局データリンク状態 (SW080～SW083)
- ・マスタユニット異常 (X0)
- ・マスタユニット異常 (X0F)
- ・自局データリンク状態 (X1)
- ・マスタユニット READY (X0F)
- ・FB 実行指令 (M10)
- ・FB エラーコード (D100) : H400 = FB 実行中止

例:インタロック例 (局番 1)



1.7. 関連マニュアル

MELSEC iQ-R CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(スタートアップ編)	(SH-081267)
MELSEC iQ-R CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(応用編)	(SH-081268)
MELSEC iQ-R CPU ユニットユーザーズマニュアル(スタートアップ編)	(SH-081223)
MELSEC iQ-R CPU ユニットユーザーズマニュアル(応用編)	(SH-081224)
GX Works3 オペレーティングマニュアル	(SH-081214)
CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット	
ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)	(50CM-D180224)

1.8. お願い

ご使用の前に、必ず対象製品の最新ユーザーズマニュアルをお読みください。



2. FB ライブラリ詳細

2.1. P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R（日時設定）

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R

機能内容

項目	内容					
機能概要	ゲートウェイユニットに日時データ(時計情報)を設定します。					
シンボル	<div><div><div>P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R</div><div><div>実行指令</div><div>B : i_bEN</div><div>o_bENO : B</div><div>実行状態</div></div><div><div>マスタユニット装着 XYアドレス</div><div>W : i_wStartIONo</div><div>o_bOK : B</div><div>正常完了</div></div><div><div>CC-Link局番</div><div>W : i_wStationNo</div><div>o_bErr : B</div><div>異常完了</div></div><div><div></div><div>o_uErrId : UW</div><div>エラーコード</div></div></div></div>					
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G				
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11
		シリーズ	モデル			
		MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11			
	対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU
シリーズ		モデル				
MELSEC iQ-R シリーズ		R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU				
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降	
	シリーズ	モデル				
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降					
記述言語	ラダー					
ステップ数	733 Step (MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合) ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。					

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて、CPU ユニットに設定されている日時データ(時計情報)をゲートウェイユニットへ転送します。i_bEN(実行指令)を ON する際には、CPU ユニットの日時データが正しく設定されていることを確認してください。</p> <div><p>開始</p><p>i_bENをON</p><p>FB内部処理</p><p>RX, RY, RWr, RWw アドレス取得</p><p>CC-Link局番 チェック</p><p>範囲外</p><p>1～64</p><p>日時設定</p><p>o_uErrIdに エラーコードをセット</p><p>o_bOKをON</p><p>o_bErrをON</p><p>i_bENをOFF</p><p>終了</p></div>

項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) ゲートウェイユニットへの電源投入後、またはリセット解除後に CC-Link の接続が確立(リモート READY が ON)した時点で実行してください。</p> <p>ゲートウェイユニットに日時データが正しく設定されていない場合、ONVIF ネットワークを介した動作が正常におこなわれれない可能性があります。</p> <p>2) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。</p> <p>エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>3) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>4) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャンが必要です。</p> <p>5) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>6) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>7) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>8) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>9) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>10) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。</p> <p>インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>11) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。</p> <p style="padding-left: 40px;">i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス)</p> <p style="padding-left: 40px;">i_wStationNo (CC-Link 局番)</p> <p>12) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>13) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>14) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容
入出力 信号の 動き	<div> 【正常完了の場合】 </div>
	<div> 【異常完了の場合】 </div>
	<div> 【中止の場合】 </div>



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1～64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1～64 になるよう に設定してください。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, ゲートウェイユニットに日時 データが設定できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを 示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコード を返します。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



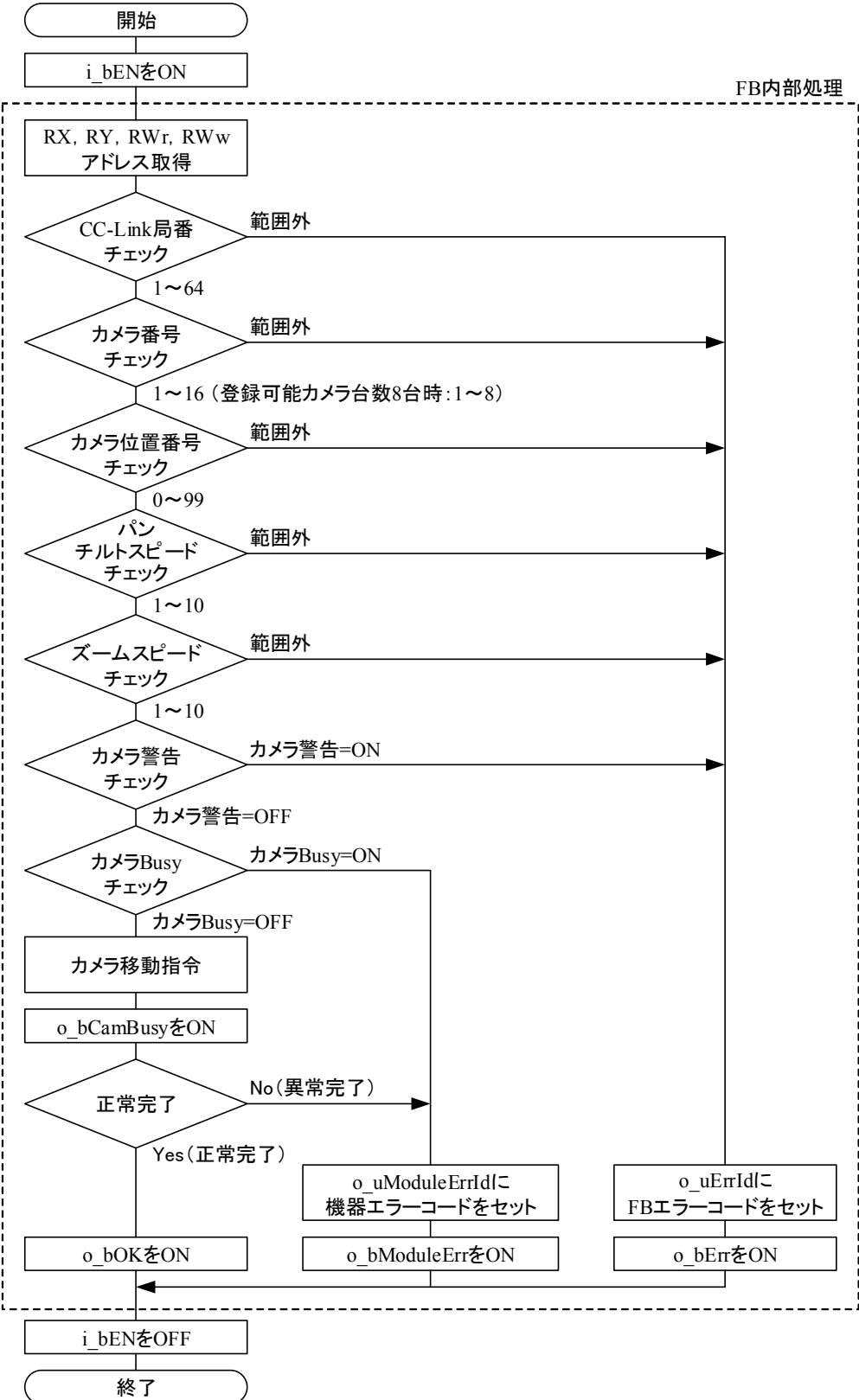
2.2. P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R (カメラ位置移動)

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R

機能内容

項目	内容							
機能概要	指定したカメラの撮影方向を登録した位置に向けます。							
シンボル	<div><div>P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R</div><div><div><div>実行指令</div><div>B : i_bEN</div><div>o_bENO : B</div><div>実行状態</div></div><div><div>マスタユニット装着 XYアドレス</div><div>W : i_wStartIONo</div><div>o_bOK : B</div><div>正常完了</div></div><div><div>CC-Link局番</div><div>W : i_wStationNo</div><div>o_bErr : B</div><div>異常完了</div></div><div><div>カメラ番号</div><div>W : i_wCameraNo</div><div>o_uErrId : UW</div><div>エラーコード</div></div><div><div>カメラ位置番号</div><div>W : i_wCameraPosNo</div><div>o_bModuleErr : B</div><div>機器異常完了</div></div><div><div>パンチルトスピード</div><div>W : i_wPanTiltSpeed</div><div>o_uModuleErrId: UW</div><div>機器エラーコード</div></div><div><div>ズームスピード</div><div>W : i_wZoomSpeed</div><div>o_bCamBusy : B</div><div>カメラBusy状態</div></div></div></div>							
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G						
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11
	シリーズ	モデル						
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11						
	対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU
シリーズ	モデル							
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU							
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降	
シリーズ	モデル							
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	1268 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。							

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて, i_wCameraNo(カメラ番号)で指定したカメラの撮影方向を登録した i_wCameraPosNo(カメラ位置番号)の方向に向けます。</p>  <pre> graph TD Start([開始]) --> OnEN[i_bENをON] OnEN --> FBBox subgraph FBBox [FB内部処理] GetAddr[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] --> CCLink{CC-Link局番 チェック 1~64} CCLink -- 範囲外 --> FBErrSet[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] CCLink -- 正常 --> CamNo{カメラ番号 チェック 1~16 (登録可能カメラ台数8台時:1~8)} CamNo -- 範囲外 --> FBErrSet CamNo -- 正常 --> CamPos{カメラ位置番号 チェック 0~99} CamPos -- 範囲外 --> FBErrSet CamPos -- 正常 --> PanTilt{パン チルトスピード チェック 1~10} PanTilt -- 範囲外 --> FBErrSet PanTilt -- 正常 --> Zoom{ズームスピード チェック 1~10} Zoom -- 範囲外 --> FBErrSet Zoom -- 正常 --> Warn{カメラ警告 チェック} Warn -- カメラ警告=ON --> FBErrSet Warn -- カメラ警告=OFF --> CamBusy{カメラBusy チェック} CamBusy -- カメラBusy=ON --> ModuleErr[o_uModuleErrIdに 機器エラーコードをセット] CamBusy -- カメラBusy=OFF --> MoveCmd[カメラ移動指令] MoveCmd --> CamBusyOn[o_bCamBusyをON] CamBusyOn --> NormalComp{正常完了} NormalComp -- No(異常完了) --> ModuleErr NormalComp -- Yes(正常完了) --> OKSet[o_bOKをON] ModuleErr --> FBErrSet FBErrSet --> FBErrOn[o_bErrをON] FBErrOn --> FBBox OKSet --> FBBox end FBBox --> OffEN[i_bENをOFF] OffEN --> End([終了]) </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) カメラ移動中は, o_bCamBusy(カメラ Busy 状態)が ON し, カメラの動作が完了したタイミングで o_bOK(正常完了)が ON します。</p> <p>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>4) i_wCameraNo(カメラ番号)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>5) i_wCameraPosNo(カメラ位置番号)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) i_wPanTiltSpeed(パンチルトスピード)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>7) i_wZoomSpeed(ズームスピード)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>8) 機器異常が発生した場合は, o_bModuleErr(機器異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uModuleErrId(機器エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>9) 指定したカメラ位置番号に位置が登録されていない場合は, o_bModuleErr(機器異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uModuleErrId(機器エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>10) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>9) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>10) パンチルトスピード可変機能およびズームスピード可変機能に対応していないカメラの場合は、当該の設定は無効となります。</p> <p>11) 本 FB を複数使用することにより、複数のカメラに対してカメラ位置移動を同時におこなうことが可能です。指定するカメラ番号は、それぞれの FB で異なるカメラ番号を指定してください。</p> <p>12) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wCameraNo (カメラ番号) i_wCameraPosNo (カメラ位置番号) i_wPanTiltSpeed (パンチルトスピード) i_wZoomSpeed (ズームスピード)</p> <p>13) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型（複数スキャン実行型）
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	【機器異常完了の場合】



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H102	カメラ番号が 1～16 または 1～8(登録可能カメラ台数 8 台時)の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H103	カメラ位置番号が 0～99 の範囲外です。	
H104	パンチルトスピードが 1～10 の範囲外です。	
H105	ズームスピードが 1～10 の範囲外です。	
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H202	カメラ警告が ON しています。	ゲートウェイ設定ツールのメンテナンス画面にてエラー内容を確認してください。
H203	カメラが Busy 状態になっています。	しばらくしてから、再度 FB を実行してください。 同じカメラ番号を指定しているカメラ位置移動 FB の実行指令を OFF してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H400	<p>実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。</p> <p>※ 1 スキャンのみ出力</p>	<p>再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。</p>



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1~64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1~64 になるよう に設定してください。
カメラ番号	i_wCameraNo	ワード	(※2)	「ゲートウェイ設定ツール」で設定したカメラ 番号を指定します。
カメラ位置番号	i_wCameraPosNo	ワード	0~99	「ゲートウェイ設定ツール」で設定したカメラ 位置番号を指定します。
パンチルトスピード	i_wPanTiltSpeed	ワード	1~10	パンチルトスピード指定機能に対応した カメラに対して移動スピードを指定します。 「1」低速 ~ 「10」高速を設定します。
ズームスピード	i_wZoomSpeed	ワード	1~10	ズームスピード指定機能に対応したカメラに 対して移動スピードを指定します。 「1」低速 ~ 「10」高速を設定します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

※2 カメラ番号の有効範囲は、以下の CC-Link システム設定により異なります。

CC-Link システム設定			登録可能カメラ台数	有効範囲
CC-Link バージョン	占有局数	拡張サイクリック設定		
Ver.1	4 局占有	—	8 台	1~8
Ver.2	1 局占有	8 倍設定	16 台	1~16
	2 局占有	2 倍設定	8 台	1~8
		4 倍設定	16 台	1~16
	4 局占有	2 倍設定	16 台	1~16



(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常にカメラの位置移動要求が完了したことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコードを返します。
機器異常完了	o_bModuleErr	ビット	OFF	ON の場合, 構成機器内で異常が発生したことを示します。
機器エラーコード	o_uModuleErrId	ワード	0	構成機器内で発生したエラーに対するエラーコードを返します。
カメラ Busy 状態	o_bCamBusy	ビット	OFF	ON : i_wCameraNo(カメラ番号)で指定したカメラが移動状態です。 OFF : i_wCameraNo(カメラ番号)で指定したカメラが停止状態です。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。

使用されるカメラによっては，パンチルトスピード指定機能，ズームスピード指定機能などに機能制限があります。



2.3. P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R (カメラ生存チェック)

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R

機能内容

項目	内容					
機能概要	指定したカメラの生存チェックをおこないます。					
シンボル	<div><div><div>P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R</div><div><div><div>実行指令</div><div>B : i_bEN</div><div>o_bENO : B</div><div>実行状態</div></div><div><div>マスタユニット装着 XYアドレス</div><div>W : i_wStartIONo</div><div>o_bOK : B</div><div>正常完了</div></div><div><div>CC-Link局番</div><div>W : i_wStationNo</div><div>o_bErr : B</div><div>異常完了</div></div><div><div>カメラ番号</div><div>W : i_wCameraNo</div><div>o_uErrId : UW</div><div>エラーコード</div></div><div><div></div><div></div><div>o_bModuleErr : B</div><div>機器異常完了</div></div><div><div></div><div></div><div>o_uModuleErrId : UW</div><div>機器エラーコード</div></div></div></div></div>					
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G				
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11
	シリーズ	モデル				
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11				
対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU					
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降					
記述言語	ラダー					
ステップ数	755 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。					

項目	内容
機能説明	<div>1) i_bEN(実行指令)の ON にて, i_wCameraNo(カメラ番号)で指定したカメラの生存チェックをおこないます。</div> <div></div> <div>2) カメラの生存が確認された場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。</div> <div>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</div> <div>4) i_wCameraNo(カメラ番号)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</div> <div>5) 機器異常が発生した場合は, o_bModuleErr(機器異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uModuleErrId(機器エラーコード)にエラーコードが格納されます。</div> <div>6) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</div>

項目	内容
FB コンパイル方式	マクロ型
制約事項、注意事項等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。 2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。 3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。 4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。 5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。 6) 本 FB は、すべての入カラベルにおいて回路の設定が必要です。 7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。 8) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。 9) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。 10) 本 FB を複数使用することにより、複数のカメラに対してカメラ生存チェックを同時におこなうことはできません。 11) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wCameraNo (カメラ番号) 12) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。 13) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。 14) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。



項目	内容
FB 動作	パルス実行型（複数スキャン実行型）
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。
入出力 信号の 動き	<div> <p>【正常完了の場合】</p> </div> <div> <p>【異常完了の場合】</p> </div> <div> <p>【中止の場合】</p> </div> <div> <p>【機器異常完了の場合】</p> </div>



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H102	カメラ番号が 1～16 または 1～8(登録可能カメラ台数 8 台時)の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1~64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1~64 になるよう に設定してください。
カメラ番号	i_wCameraNo	ワード	(※2)	「ゲートウェイ設定ツール」で設定したカメラ 番号を指定します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

※2 カメラ番号の有効範囲は、以下の CC-Link システム設定により異なります。

CC-Link システム設定			登録可能カメラ台数	有効範囲
CC-Link バージョン	占有局数	拡張サイクリック設定		
Ver.1	4 局占有	—	8 台	1~8
Ver.2	1 局占有	8 倍設定	16 台	1~16
	2 局占有	2 倍設定	8 台	1~8
		4 倍設定	16 台	1~16
	4 局占有	2 倍設定	16 台	1~16



(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常にカメラの生存が確認できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコードを返します。
機器異常完了	o_bModuleErr	ビット	OFF	ON の場合, 構成機器内で異常が発生したことを示します。
機器エラーコード	o_uModuleErrId	ワード	0	構成機器内で発生したエラーに対するエラーコードを返します。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



2.4. P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R (カメラ位置取得)

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R

機能内容

項目	内容					
機能概要	指定したカメラの現在位置番号を取得します。					
シンボル	<div><div><div>P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R</div><div><div><div>実行指令</div><div>B : i_bEN</div><div>o_bENO : B</div><div>実行状態</div></div><div><div>マスタユニット装着 XYアドレス</div><div>W : i_wStartIONo</div><div>o_bOK : B</div><div>正常完了</div></div><div><div>CC-Link局番</div><div>W : i_wStationNo</div><div>o_bErr : B</div><div>異常完了</div></div><div><div>カメラ番号</div><div>W : i_wCameraNo</div><div>o_uErrId : UW</div><div>エラーコード</div></div><div><div></div><div>o_bModuleErr : B</div><div></div><div>機器異常完了</div></div><div><div></div><div>o_uModuleErrId : UW</div><div></div><div>機器エラーコード</div></div><div><div></div><div>o_wCameraPosNo : W</div><div></div><div>カメラ位置番号</div></div></div></div></div>					
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G				
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11
	シリーズ	モデル				
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11				
対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU					
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降					
記述言語	ラダー					
ステップ数	804 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。					

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて, i_wCameraNo(カメラ番号)で指定したカメラの現在位置番号を取得します。</p> <pre> graph TD Start([開始]) --> IBENON[i_bENをON] IBENON --> FBInternal[FB内部処理] subgraph FBInternal [FB内部処理] RX[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] --> CCLink{CC-Link局番 チェック} CCLink -- 範囲外 --> FBErrSet[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] CCLink -- 1~64 --> CamNo{カメラ番号 チェック} CamNo -- 範囲外 --> FBErrSet CamNo -- 1~16 (登録可能カメラ台数8台時:1~8) --> CamPosGet[カメラ位置取得] CamPosGet --> Normal{正常完了} Normal -- No(異常完了) --> FBErrSet Normal -- Yes(正常完了) --> PosSet[o_wCameraPosNoに カメラ位置番号をセット] PosSet --> BOK[o_bOKをON] BOK --> IBENOFF[i_bENをOFF] IBENOFF --> End([終了]) end FBInternal --> IBENOFF </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) カメラ位置の取得に成功した場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。取得したカメラ位置番号が o_wCameraPosNo(カメラ位置番号)に 0～99 の範囲で格納されます。 登録されていない位置の場合は, o_wCameraPosNo(カメラ位置番号)に H00FF が格納されます。</p> <p>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>4) i_wCameraNo(カメラ番号)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>5) 機器異常が発生した場合は, o_bModuleErr(機器異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。 o_uModuleErrId(機器エラーコード)にエラーコードが格納されます。 また, o_wCameraPosNo(カメラ位置番号)に HFFFF が格納されます。</p> <p>6) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。 o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>9) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>10) 本 FB を複数使用することにより、複数のカメラに対してカメラ位置取得を同時におこなうことはできません。</p> <p>11) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wCameraNo (カメラ番号)</p> <p>12) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>13) 対象のカメラに同じカメラ位置を重複して登録している場合は、若い位置番号が出力されます。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型（複数スキャン実行型）
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	【機器異常完了の場合】



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H102	カメラ番号が 1～16 または 1～8(登録可能カメラ台数 8 台時)の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1~64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1~64 になるよう に設定してください。
カメラ番号	i_wCameraNo	ワード	(※2)	「ゲートウェイ設定ツール」で設定したカメラ 番号を指定します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

※2 カメラ番号の有効範囲は、以下の CC-Link システム設定により異なります。

CC-Link システム設定			登録可能カメラ台数	有効範囲
CC-Link バージョン	占有局数	拡張サイクリック設定		
Ver.1	4 局占有	—	8 台	1~8
Ver.2	1 局占有	8 倍設定	16 台	1~16
	2 局占有	2 倍設定	8 台	1~8
		4 倍設定	16 台	1~16
	4 局占有	2 倍設定	16 台	1~16



(2) 出力ラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常にカメラの位置が取得できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコードを返します。
機器異常完了	o_bModuleErr	ビット	OFF	ON の場合, 構成機器内で異常が発生したことを示します。
機器エラーコード	o_uModuleErrId	ワード	0	構成機器内で発生したエラーに対するエラーコードを返します。
カメラ位置番号	o_wCameraPosNo	ワード	0	正常完了時, 取得したカメラ位置番号を示します。(0~99) 登録されていない位置の場合は, H00FF が格納されます。 カメラ位置取得ができない場合は HFFFF が格納され, 機器エラーコードに ONVIF 関連のエラーコードを格納します。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



2.5. P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R（イベント送信）

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R

機能内容

項目	内容					
機能概要	イベントを送信します。					
シンボル	<div><div><div>P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R</div><div><div>実行指令 — B : i_bEN</div><div>o_bENO : B — 実行状態</div></div><div><div>マスタユニット装着 XYアドレス — W : i_wStartIONo</div><div>o_bOK : B — 正常完了</div></div><div><div>CC-Link局番 — W : i_wStationNo</div><div>o_bErr : B — 異常完了</div></div><div><div>アクセスコード — W : i_wAccessCode</div><div>o_uErrId: UW — エラーコード</div></div><div><div>ソース — W : i_wSource</div></div><div><div>データ1 — W : i_wData1</div></div><div><div>データ2 — W : i_wData2</div></div><div><div>データ3 — W : i_wData3</div></div></div></div>					
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G				
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11
	シリーズ	モデル				
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11				
対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU					
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降					
記述言語	ラダー					
ステップ数	570 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。					

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて、イベントを送信します。</p> <pre> graph TD Start([開始]) --> IBENON[i_bENをON] IBENON --> FBBox subgraph FBBox [FB内部処理] direction TB A[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] --> B{CC-Link局番 チェック} B -- 範囲外 --> D[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] B -- 1~64 --> C{アクセスコード チェック} C -- 範囲外 --> D C -- 0BH, 0CH --> E[イベント送信] E --> F{正常完了} F -- No(異常完了) --> D F -- Yes(正常完了) --> G[o_bOKをON] D --> H[o_bErrをON] end G --> I[i_bENをOFF] H --> I I --> End([終了]) </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) イベントの送信に成功した場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。</p> <p>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>4) i_wAccessCode(アクセスコード)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>5) イベントの送信に失敗した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) ネットワーク構成設定のインテリジェント用バッファ指定(ワード)の送信を 128 ワード以上に設定してください。</p> <p>9) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>10) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>11) 本 FB は、トランジェント伝送を使用しています。他のトランジェント伝送を使用する FB の動作中に i_bEN(実行指令)を ON にしないでください。</p> <p>12) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wAccessCode (アクセスコード) i_wSource (ソース) i_wData1 (データ 1) i_wData2 (データ 2) i_wData3 (データ 3)</p> <p>13) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H106	イベント送信のアクセスコードが H0B, H0C 以外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例:X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1~64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1~64 になるよう に設定してください。
アクセスコード	i_wAccessCode	ワード	H0B, H0C	アクセスコードを指定します。 H0B: ユーザーアラーム 侵入検出など高レベルのイベント H0C: ユーザーイベント ロット番号など通常レベルのイベント
ソース	i_wSource	ワード	— (※2)	送信データ(Source)を指定します。 32 ワードのエリアが必要です。 32 ワード固定で転送します。
データ 1	i_wData1	ワード	— (※2)	送信データ(Data1)を指定します。 32 ワードのエリアが必要です。 32 ワード固定で転送します。
データ 2	i_wData2	ワード	— (※2)	送信データ(Data2)を指定します。 32 ワードのエリアが必要です。 32 ワード固定で転送します。
データ 3	i_wData3	ワード	— (※2)	送信データ(Data3)を指定します。 32 ワードのエリアが必要です。 32 ワード固定で転送します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

※2 ソース, データ 1, データ 2, データ 3 は, デバイス範囲が重複しないように注意してください。



イベント送信は、以下のデータ内容(任意の文字列)にて送信をおこないます。

ワードアドレス	データ内容	データ型	データサイズ
xx0 + i_wSource	ソース	ワード	32 ワード(64Byte)
xx0 + i_wData1	データ 1	ワード	32 ワード(64Byte)
xx0 + i_wData2	データ 2	ワード	32 ワード(64Byte)
xx0 + i_wData3	データ 3	ワード	32 ワード(64Byte)

※ xx は、デバイス名称になります。

例：侵入禁止エリアの侵入検出の場合（ユーザーアラーム H0B）

i_wSource : D100
i_wData1 : D200
i_wData2 : D300
i_wData3 : D400

デバイス	データ内容(文字列)	内容
D100～D131	“INTRUSION”	侵入検出
D200～D231	“FLOOR_3”	侵入階
D300～D331	“AREA_2”	侵入地域番号
D400～D431	“SENSOR_5”	侵入検出センサー番号

(2) 出力ラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合、正常にイベントを送信できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合、FB 内でエラーが発生したことを示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコードを返します。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



2.6. P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R (イベント受信)

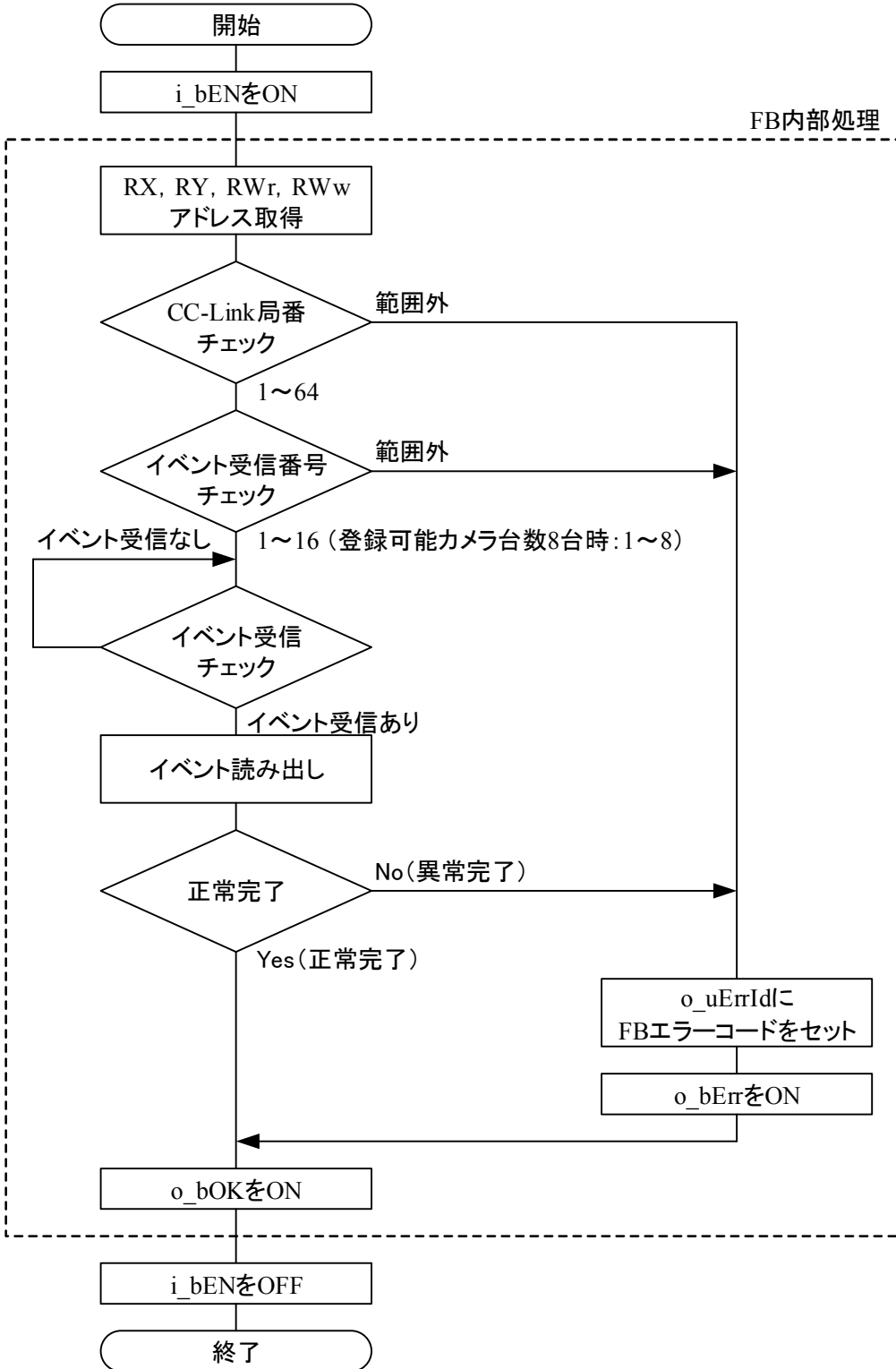
名称

P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R

機能内容

項目	内容																																											
機能概要	受信しているイベントの内容を読み出します。																																											
シンボル	<table><tr><td colspan="4">P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R</td></tr><tr><td>実行指令</td><td>B : i_bEN</td><td>o_bENO : B</td><td>実行状態</td></tr><tr><td>マスタユニット装着 XYアドレス</td><td>W : i_wStartIONo</td><td>o_bOK : B</td><td>正常完了</td></tr><tr><td>CC-Link局番</td><td>W : i_wStationNo</td><td>o_bErr : B</td><td>異常完了</td></tr><tr><td>イベント受信番号</td><td>W : i_wEventRecvNo</td><td>o_uErrId : UW</td><td>エラーコード</td></tr><tr><td></td><td></td><td>o_wDate : W</td><td>日時データ</td></tr><tr><td></td><td></td><td>o_wSource : W</td><td>ソース</td></tr><tr><td></td><td></td><td>o_wData1 : W</td><td>データ1</td></tr><tr><td></td><td></td><td>o_wData2 : W</td><td>データ2</td></tr><tr><td></td><td></td><td>o_wData3 : W</td><td>データ3</td></tr></table>				P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R				実行指令	B : i_bEN	o_bENO : B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W : i_wStartIONo	o_bOK : B	正常完了	CC-Link局番	W : i_wStationNo	o_bErr : B	異常完了	イベント受信番号	W : i_wEventRecvNo	o_uErrId : UW	エラーコード			o_wDate : W	日時データ			o_wSource : W	ソース			o_wData1 : W	データ1			o_wData2 : W	データ2			o_wData3 : W	データ3
P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R																																												
実行指令	B : i_bEN	o_bENO : B	実行状態																																									
マスタユニット装着 XYアドレス	W : i_wStartIONo	o_bOK : B	正常完了																																									
CC-Link局番	W : i_wStationNo	o_bErr : B	異常完了																																									
イベント受信番号	W : i_wEventRecvNo	o_uErrId : UW	エラーコード																																									
		o_wDate : W	日時データ																																									
		o_wSource : W	ソース																																									
		o_wData1 : W	データ1																																									
		o_wData2 : W	データ2																																									
		o_wData3 : W	データ3																																									
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G																																										
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11																																				
	シリーズ	モデル																																										
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11																																										
	対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU																																				
シリーズ	モデル																																											
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU																																											
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降																																					
シリーズ	モデル																																											
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降																																											
記述言語	ラダー																																											
ステップ数	756 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。																																											



項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて、受信しているイベントの内容を読み出します。受信しているイベントがない場合は、イベントを受信するまで待機し、イベントの受信完了後に読み出しを開始します。</p>  <pre> graph TD Start([開始]) --> IBENON[i_bENをON] IBENON --> FBBox subgraph FBBox [FB内部処理] direction TB A[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] --> B{CC-Link局番 チェック} B -- "範囲外 1~64" --> FBBoxExit B -- "1~64" --> C{イベント受信番号 チェック} C -- "範囲外" --> FBBoxExit C -- "1~16 (登録可能カメラ台数8台時:1~8)" --> D{イベント受信 チェック} D -- "イベント受信なし" --> D D -- "イベント受信あり" --> E[イベント読み出し] E --> F{正常完了} F -- "No(異常完了)" --> G[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] G --> H[o_bErrをON] H --> FBBoxExit F -- "Yes(正常完了)" --> I[o_bOKをON] end FBBoxExit --> J[i_bENをOFF] J --> End([終了]) </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) イベントの読み出しに成功した場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。 o_wSource(ソース), o_wData1(データ 1), o_wData2(データ 2), o_wData3(データ 3)に受信データが格納されます。</p> <p>3) o_bOK(正常完了)が ON になった後, 次のイベントを受信するためには, i_bEN(実行指令)を OFF にする必要があります。</p> <p>4) イベントの読み出しが完了するまでの間は, o_bENO(実行状態)が ON した状態のまま, o_bOK(正常完了)が ON しません。</p> <p>5) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) i_wEventRecvNo(イベント受信番号)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)が ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>7) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) ネットワーク構成設定のインテリジェント用バッファ指定(ワード)の受信を 131 ワード以上に設定してください。</p> <p>9) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>10) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>11) 本 FB は、トランジェント伝送を使用しています。他のトランジェント伝送を使用する FB の動作中に i_bEN(実行指令)を ON にしないでください。</p> <p>12) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wEventRecvNo (イベント受信番号)</p> <p>13) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H107	イベント受信番号が 1～16 または 1～8(登録可能カメラ台数 8 台時)の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1～64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1～64 になるよう に設定してください。
イベント受信番号	i_wEventRecvNo	ワード	(※2)	「ゲートウェイ設定ツール」で設定した受信 するイベント番号を指定します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

※2 イベント受信番号の有効範囲は、以下の CC-Link システム設定により異なります。

CC-Link システム設定			登録可能カメラ台数	有効範囲
CC-Link バージョン	占有局数	拡張サイクリック設定		
Ver.1	4 局占有	—	8 台	1～8
Ver.2	1 局占有	8 倍設定	16 台	1～16
	2 局占有	2 倍設定	8 台	1～8
		4 倍設定	16 台	1～16
	4 局占有	2 倍設定	16 台	1～16



(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常にイベントの内容を読み出しできたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコードを返します。
日時データ	o_wDate	ワード	— (※1)	受信時の日時データを示します。 3 ワードのエリアが必要です。 3 ワード固定で転送します。
ソース	o_wSource	ワード	— (※1)	受信データ(Source)を示します。 32 ワードのエリアが必要です。 32 ワード固定で転送します。
データ 1	o_wData1	ワード	— (※1)	受信データ(Data1)を示します。 32 ワードのエリアが必要です。 32 ワード固定で転送します。
データ 2	o_wData2	ワード	— (※1)	受信データ(Data2)を示します。 32 ワードのエリアが必要です。 32 ワード固定で転送します。
データ 3	o_wData3	ワード	— (※1)	受信データ(Data3)を示します。 32 ワードのエリアが必要です。 32 ワード固定で転送します。

※1 日時データ, ソース, データ 1, データ 2, データ 3 は, デバイス範囲が重複しないように注意してください。



① 日時データ

ワードアドレス	データ内容	データ型	説明	備考
xx0 + o_wDate	発生日時(年月)	ワード	イベントが発生した日時 (上位 8bit: 西暦の下 2 桁 下位 8bit: 月)	BCD 形式にて格納 されます。 日時設定にて 日時を設定していない 場合は, すべて HFFFF です。
xx1 + o_wDate	発生日時(日時)	ワード	イベントが発生した日時 (上位 8bit: 日 下位 8bit: 時(24 時間計))	
xx2 + o_wDate	発生日時(分秒)	ワード	イベントが発生した日時 (上位 8bit: 分 下位 8bit: 秒)	

※ xx は, デバイス名称になります。

② イベントの内容

受信したイベントの内容は, 以下のデータ内容(任意の文字列)にて読み出されます。

ワードアドレス	データ内容	データ型	データサイズ
xx0 + o_wSource	ソース	ワード	32 ワード(64Byte)
xx0 + o_wData1	データ 1	ワード	32 ワード(64Byte)
xx0 + o_wData2	データ 2	ワード	32 ワード(64Byte)
xx0 + o_wData3	データ 3	ワード	32 ワード(64Byte)

※ xx は, デバイス名称になります。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

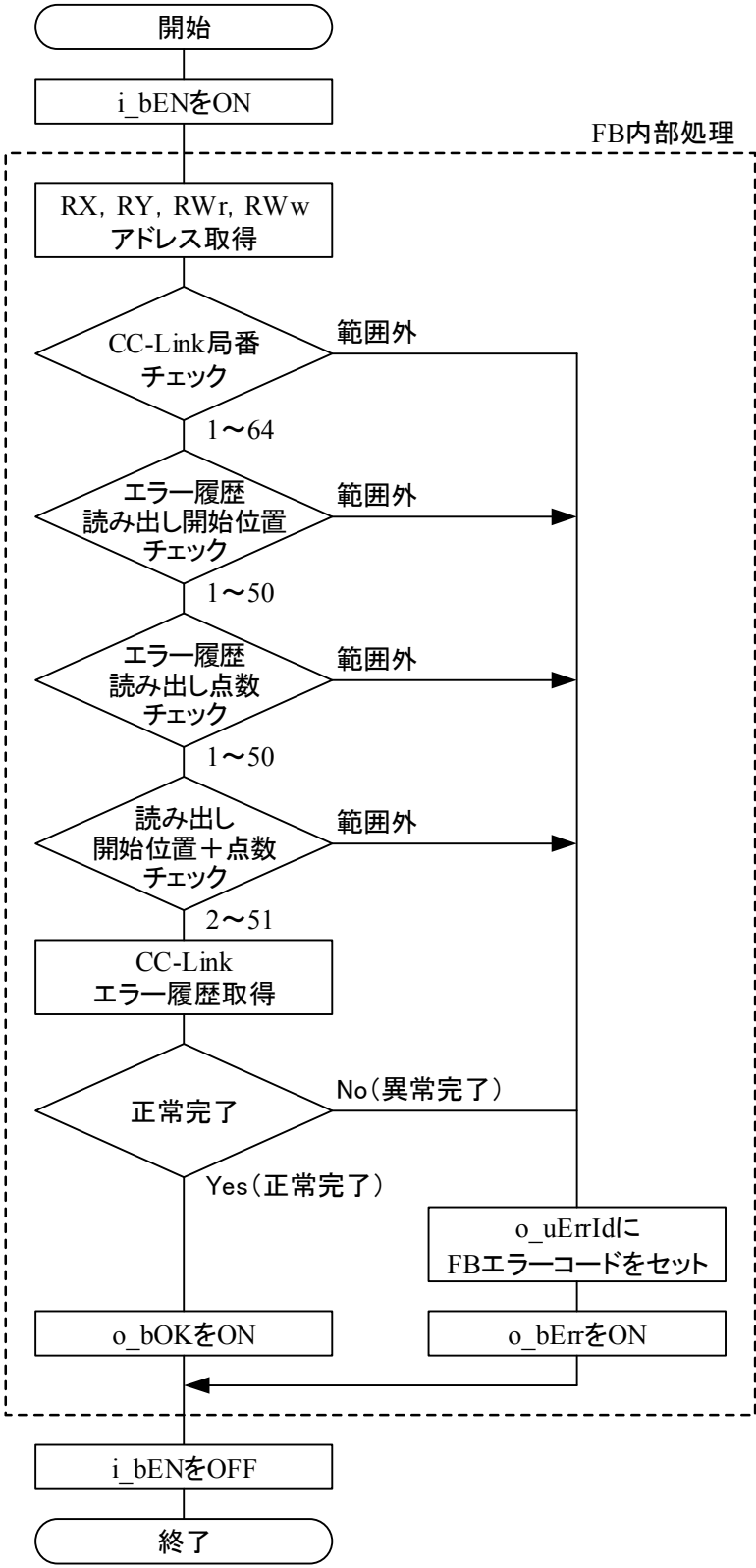
本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



2.7. P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R（CC-Link エラー履歴取得）

名称																										
P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R																										
機能内容																										
項目	内容																									
機能概要	CC-Link システムのエラー履歴を取得します。																									
シンボル	<table><tr><td colspan="4">P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R</td></tr><tr><td>実行指令</td><td>B : i_bEN</td><td>o_bENO : B</td><td>実行状態</td></tr><tr><td>マスタユニット装着 XYアドレス</td><td>W : i_wStartIONo</td><td>o_bOK : B</td><td>正常完了</td></tr><tr><td>CC-Link局番</td><td>W : i_wStationNo</td><td>o_bErr : B</td><td>異常完了</td></tr><tr><td>エラー履歴 読み出し開始位置</td><td>W : i_wErrHistStart</td><td>o_uErrId : UW</td><td>エラーコード</td></tr><tr><td>エラー履歴読み出し点数</td><td>W : i_wErrHistCount</td><td>o_wReadData : W</td><td>エラー履歴読み出し データ</td></tr></table>		P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R				実行指令	B : i_bEN	o_bENO : B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W : i_wStartIONo	o_bOK : B	正常完了	CC-Link局番	W : i_wStationNo	o_bErr : B	異常完了	エラー履歴 読み出し開始位置	W : i_wErrHistStart	o_uErrId : UW	エラーコード	エラー履歴読み出し点数	W : i_wErrHistCount	o_wReadData : W	エラー履歴読み出し データ
P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R																										
実行指令	B : i_bEN	o_bENO : B	実行状態																							
マスタユニット装着 XYアドレス	W : i_wStartIONo	o_bOK : B	正常完了																							
CC-Link局番	W : i_wStationNo	o_bErr : B	異常完了																							
エラー履歴 読み出し開始位置	W : i_wErrHistStart	o_uErrId : UW	エラーコード																							
エラー履歴読み出し点数	W : i_wErrHistCount	o_wReadData : W	エラー履歴読み出し データ																							
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G																								
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11																				
	シリーズ	モデル																								
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11																								
対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU																					
シリーズ	モデル																									
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU																									
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降																					
シリーズ	モデル																									
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降																									
記述言語	ラダー																									
ステップ数	603 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。																									

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて、CC-Link システムのエラー履歴を取得します。</p>  <pre> graph TD Start([開始]) --> IBENON[i_bENをON] IBENON --> FBBox subgraph FBBox [FB内部処理] RX[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] --> CCLinkCheck{CC-Link局番 チェック 1~64} CCLinkCheck -- 範囲外 --> SetErrId[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] CCLinkCheck -- 正常 --> ErrStartCheck{エラー履歴 読み出し開始位置 チェック 1~50} ErrStartCheck -- 範囲外 --> SetErrId ErrStartCheck -- 正常 --> ErrPointCheck{エラー履歴 読み出し点数 チェック 1~50} ErrPointCheck -- 範囲外 --> SetErrId ErrPointCheck -- 正常 --> PosCheck{読み出し 開始位置+点数 チェック 2~51} PosCheck -- 範囲外 --> SetErrId PosCheck -- 正常 --> CCLinkErrHist[CC-Link エラー履歴取得] CCLinkErrHist --> NormalComp{正常完了} NormalComp -- No(異常完了) --> SetErrId NormalComp -- Yes(正常完了) --> OBOKON[o_bOKをON] end SetErrId --> OBErON[o_bErrをON] OBErON --> IBENOFF[i_bENをOFF] OBOKON --> IBENOFF IBENOFF --> End([終了]) </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) CC-Link システムのエラー履歴の取得に成功した場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。</p> <p>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>4) i_wErrHistStart(エラー履歴読み出し開始位置)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>5) i_wErrHistCount(エラー履歴読み出し点数)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) i_wErrHistStart(エラー履歴読み出し開始位置)と i_wErrHistCount(エラー履歴読み出し点数)の組み合わせが正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>7) CC-Link システムのエラー履歴の取得に失敗した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>8) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) ネットワーク構成設定のインテリジェント用バッファ指定(ワード)の受信を 8 ワード×一度に読み出すエラー履歴読み出し点数(1～50)分(最大 400 ワード)以上に設定してください。</p> <p>9) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>10) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>11) 本 FB は、トランジェント伝送を使用しています。他のトランジェント伝送を使用する FB の動作中に i_bEN(実行指令)を ON にしないでください。</p> <p>12) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wErrHistStart (エラー履歴読み出し開始位置) i_wErrHistCount (エラー履歴読み出し点数)</p> <p>13) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H108	エラー履歴読み出し開始位置が 1～50 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H109	エラー履歴読み出し点数が 1～50 の範囲外です。	
H10A	エラー履歴読み出し開始位置と読み出し点数の合計が 51 を超えています。	
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H400	<p>実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。</p> <p>※ 1 スキャンのみ出力</p>	<p>再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。</p>



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1～64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1～64 になるよう に設定してください。
エラー履歴 読み出し開始位置	i_wErrHistStart	ワード	1～50	エラー履歴を読み出す開始位置(先頭履歴 番号)を指定します。
エラー履歴 読み出し点数	i_wErrHistCount	ワード	1～50	エラー履歴を読み出す点数(履歴数)を指定 します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常に CC-Link システムの エラー履歴を取得できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを 示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコード を返します。
エラー履歴 読み出しデータ	o_wReadData	ワード	—	CC-Link システムのエラー履歴を示します。 8 ワード×エラー履歴読み出し点数分の サイズが必要です。 内容の詳細は「①エラー履歴エリア」および 「②履歴データ詳細」を参照してください。



① エラー履歴エリア

エラー履歴は以下の順番で格納されます。

発生したエラー数が 50 個を超えた場合は、古いエラーから削除され常時最新のエラーが格納されます。

エラー履歴エリア	エラー発生数					
	1 個	2 個	～	49 個	50 個	51 個
エラー履歴エリア 1	1 個目のエラー	2 個目のエラー	～	49 個目のエラー	50 個目のエラー	51 個目のエラー
エラー履歴エリア 2	ブランク	1 個目のエラー	～	48 個目のエラー	49 個目のエラー	50 個目のエラー
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
エラー履歴エリア 49	ブランク	ブランク	～	1 個目のエラー	2 個目のエラー	3 個目のエラー
エラー履歴エリア 50	ブランク	ブランク	～	ブランク	1 個目のエラー	2 個目のエラー



② 履歴データ詳細

エラー履歴データ内容がエラー履歴読み出し点数分、デバイスに読み込まれます。

ワードアドレス	データ内容	データ型	説明	備考
xx0 + o_wReadData	発生日時(年月)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 西暦の下 2 桁 下位 8bit: 月)	BCD 形式にて格納 されます。 エラーが発生していない 場合、および日時設定 にて日時を設定して いない場合は、すべて HFFFF です。
xx1 + o_wReadData	発生日時(日時)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 日 下位 8bit: 時(24 時間計))	
xx2 + o_wReadData	発生日時(分秒)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 分 下位 8bit: 秒)	
xx3 + o_wReadData	稼働時間(日)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (起動から稼働した日数)	BCD 形式にて格納 されます。 エラーが発生していない 場合は、すべて HFFFF です。 ゲートウェイユニットが 起動した時点からの 経過時間です。
xx4 + o_wReadData	稼働時間(時分)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (上位 8bit: 時 下位 8bit: 分)	
xx5 + o_wReadData	稼働時間(秒)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (上位 8bit: 秒 下位 8bit: 未使用)	
xx6 + o_wReadData	エラー発生順	ワード	エラーが発生した順序	0~65535
xx7 + o_wReadData	エラーコード	ワード	発生したエラーに対する エラーコード	CC-Link システム／ ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズ マニュアル(詳細編)を 参照してください。

※ xx は、デバイス名称になります。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



2.8. P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R (ONVIF エラー履歴取得)

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R

機能内容

項目	内容							
機能概要	ONVIF ネットワークのエラー履歴を取得します。							
シンボル	<div><div>P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R</div><div><div><div>実行指令</div><div>マスタユニット装着 XYアドレス</div><div>CC-Link局番</div><div>エラー履歴 読み出し開始位置</div><div>エラー履歴読み出し点数</div></div><div><div>B : i_bEN</div><div>W : i_wStartIONo</div><div>W : i_wStationNo</div><div>W : i_wErrHistStart</div><div>W : i_wErrHistCount</div></div><div><div>o_bENO : B</div><div>o_bOK : B</div><div>o_bErr : B</div><div>o_uErrId : UW</div><div>o_wReadData : W</div></div><div><div>実行状態</div><div>正常完了</div><div>異常完了</div><div>エラーコード</div><div>エラー履歴読み出し データ</div></div></div></div>							
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G						
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11
	シリーズ	モデル						
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11						
	対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU
シリーズ	モデル							
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU							
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降	
シリーズ	モデル							
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	603 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。							

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて、ONVIF ネットワークのエラー履歴を取得します。</p> <pre> graph TD Start([開始]) --> IBENON[i_bENをON] IBENON --> FBBox subgraph FBBox [FB内部処理] RX[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] --> CCLink{CC-Link局番 チェック 1～64} CCLink -- 範囲外 --> SetErr[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] SetErr --> OBErrON[o_bErrをON] CCLink -- 範囲内 --> StartPos{エラー履歴 読み出し開始位置 チェック 1～50} StartPos -- 範囲外 --> SetErr StartPos -- 範囲内 --> Count{エラー履歴 読み出し点数 チェック 1～50} Count -- 範囲外 --> SetErr Count -- 範囲内 --> PosSum{読み出し 開始位置+点数 チェック 2～51} PosSum -- 範囲外 --> SetErr PosSum -- 範囲内 --> ONVIF[ONVIF エラー履歴取得] ONVIF --> Normal{正常完了} Normal -- No(異常完了) --> SetErr Normal -- Yes(正常完了) --> OBENO[o_bENOをON] end OBENO --> IBENOFF[i_bENをOFF] IBENOFF --> End([終了]) OBErrON --> OBENO </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) ONVIF ネットワークのエラー履歴の取得に成功した場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。</p> <p>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>4) i_wErrHistStart(エラー履歴読み出し開始位置)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>5) i_wErrHistCount(エラー履歴読み出し点数)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) i_wErrHistStart(エラー履歴読み出し開始位置)と i_wErrHistCount(エラー履歴読み出し点数)の組み合わせが正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>7) ONVIF ネットワークのエラー履歴の取得に失敗した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>8) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) ネットワーク構成設定のインテリジェント用バッファ指定(ワード)の受信を 9 ワード×一度に読み出すエラー履歴読み出し点数(1～50)分(最大 450 ワード)以上に設定してください。</p> <p>9) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>10) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>11) 本 FB は、トランジェント伝送を使用しています。他のトランジェント伝送を使用する FB の動作中に i_bEN(実行指令)を ON にしないでください。</p> <p>12) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wErrHistStart (エラー履歴読み出し開始位置) i_wErrHistCount (エラー履歴読み出し点数)</p> <p>13) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H108	エラー履歴読み出し開始位置が 1～50 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H109	エラー履歴読み出し点数が 1～50 の範囲外です。	
H10A	エラー履歴読み出し開始位置と読み出し点数の合計が 51 を超えています。	
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1～64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1～64 になるよう に設定してください。
エラー履歴 読み出し開始位置	i_wErrHistStart	ワード	1～50	エラー履歴を読み出す開始位置(先頭履歴 番号)を指定します。
エラー履歴 読み出し点数	i_wErrHistCount	ワード	1～50	エラー履歴を読み出す点数(履歴数)を指定 します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常に ONVIF ネットワークの エラー履歴を取得できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを 示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコード を返します。
エラー履歴 読み出しデータ	o_wReadData	ワード	—	ONVIF ネットワークのエラー履歴を示します。 9 ワード×エラー履歴読み出し点数分の サイズが必要です。 内容の詳細は「①エラー履歴エリア」および 「②履歴データ詳細」を参照してください。



① エラー履歴エリア

エラー履歴は以下の順番で格納されます。

発生したエラー数が 50 個を超えた場合は、古いエラーから削除され常時最新のエラーが格納されます。

エラー履歴エリア	エラー発生数					
	1 個	2 個	～	49 個	50 個	51 個
エラー履歴エリア 1	1 個目のエラー	2 個目のエラー	～	49 個目のエラー	50 個目のエラー	51 個目のエラー
エラー履歴エリア 2	ブランク	1 個目のエラー	～	48 個目のエラー	49 個目のエラー	50 個目のエラー
}	}	}	}	}	}	}
エラー履歴エリア 49	ブランク	ブランク	～	1 個目のエラー	2 個目のエラー	3 個目のエラー
エラー履歴エリア 50	ブランク	ブランク	～	ブランク	1 個目のエラー	2 個目のエラー



② 履歴データ詳細

エラー履歴データ内容がエラー履歴読み出し点数分、デバイスに読み込まれます。

ワードアドレス	データ内容	データ型	説明	備考
xx0 + o_wReadData	発生日時(年月)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 西暦の下 2 桁 下位 8bit: 月)	BCD 形式にて格納 されます。 エラーが発生していない 場合、および日時設定 にて日時を設定して いない場合は、すべて HFFFF です。
xx1 + o_wReadData	発生日時(日時)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 日 下位 8bit: 時(24 時間計))	
xx2 + o_wReadData	発生日時(分秒)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 分 下位 8bit: 秒)	
xx3 + o_wReadData	稼働時間(日)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (起動から稼働した日数)	BCD 形式にて格納 されます。 エラーが発生していない 場合は、すべて HFFFF です。 ゲートウェイユニットが 起動した時点からの 経過時間です。
xx4 + o_wReadData	稼働時間(時分)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (上位 8bit: 時 下位 8bit: 分)	
xx5 + o_wReadData	稼働時間(秒)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (上位 8bit: 秒 下位 8bit: 未使用)	
xx6 + o_wReadData	エラー発生順	ワード	エラーが発生した順序	0~65535
xx7 + o_wReadData	エラーコード	ワード	発生したエラーに対する エラーコード	CC-Link システム／ ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズ マニュアル(詳細編)を 参照してください。
xx8 + o_wReadData	カメラ番号	ワード	0, エラーが発生したカメラの カメラ番号(1~16)	カメラに関与しない エラーの場合は 0 と なります。

※ xx は、デバイス名称になります。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



2.9. P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R（ユニットエラー履歴取得）

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R

機能内容

項目	内容					
機能概要	ユニットのエラー履歴を取得します。					
シンボル	<div><div><div>P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R</div><div><div><div>実行指令</div><div>マスタユニット装着 XYアドレス</div><div>CC-Link局番</div><div>エラー履歴 読み出し開始位置</div><div>エラー履歴読み出し点数</div></div><div><div>B : i_bEN</div><div>W : i_wStartIONo</div><div>W : i_wStationNo</div><div>W : i_wErrHistStart</div><div>W : i_wErrHistCount</div></div><div><div>o_bENO : B</div><div>o_bOK : B</div><div>o_bErr : B</div><div>o_uErrId : UW</div><div>o_wReadData : W</div></div><div><div>実行状態</div><div>正常完了</div><div>異常完了</div><div>エラーコード</div><div>エラー履歴読み出し データ</div></div></div></div></div>					
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G				
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11
	シリーズ	モデル				
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11				
	対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU					
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降					
記述言語	ラダー					
ステップ数	603 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。					

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて、ゲートウェイユニットのエラー履歴を取得します。</p> <pre> graph TD Start([開始]) --> IBENON[i_bENをON] IBENON --> FBBox subgraph FBBox [FB内部処理] direction TB A[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] --> B{CC-Link局番 チェック 1~64} B -- 範囲外 --> E[] B -- 範囲内 --> C{エラー履歴 読み出し開始位置 チェック 1~50} C -- 範囲外 --> E C -- 範囲内 --> D{エラー履歴 読み出し点数 チェック 1~50} D -- 範囲外 --> E D -- 範囲内 --> F{読み出し 開始位置+点数 チェック 2~51} F -- 範囲外 --> E F -- 範囲内 --> G[ユニット エラー履歴取得] G --> H{正常完了} H -- Yes(正常完了) --> I[o_bOKをON] H -- No(異常完了) --> E end E --> J[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] J --> K[o_bErrをON] I --> L[i_bENをOFF] K --> L L --> End([終了]) </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) ゲートウェイユニットのエラー履歴の取得に成功した場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。</p> <p>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>4) i_wErrHistStart(エラー履歴読み出し開始位置)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>5) i_wErrHistCount(エラー履歴読み出し点数)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) i_wErrHistStart(エラー履歴読み出し開始位置)と i_wErrHistCount(エラー履歴読み出し点数)の組み合わせが正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>7) ゲートウェイユニットのエラー履歴の取得に失敗した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>8) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) ネットワーク構成設定のインテリジェント用バッファ指定(ワード)の受信を 8 ワード×一度に読み出すエラー履歴読み出し点数(1～50)分(最大 400 ワード)以上に設定してください。</p> <p>9) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>10) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>11) 本 FB は、トランジェント伝送を使用しています。他のトランジェント伝送を使用する FB の動作中に i_bEN(実行指令)を ON にしないでください。</p> <p>12) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wErrHistStart (エラー履歴読み出し開始位置) i_wErrHistCount (エラー履歴読み出し点数)</p> <p>13) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H108	エラー履歴読み出し開始位置が 1～50 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H109	エラー履歴読み出し点数が 1～50 の範囲外です。	
H10A	エラー履歴読み出し開始位置と読み出し点数の合計が 51 を超えています。	
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1～64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1～64 になるよう に設定してください。
エラー履歴 読み出し開始位置	i_wErrHistStar	ワード	1～50	エラー履歴を読み出す開始位置(先頭履歴 番号)を指定します。
エラー履歴 読み出し点数	i_wErrHistCount	ワード	1～50	エラー履歴を読み出す点数(履歴数)を指定 します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常にゲートウェイユニットの エラー履歴を取得できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを 示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコード を返します。
エラー履歴 読み出しデータ	o_wReadData	ワード	—	ユニットのエラー履歴を示します。 8 ワード×エラー履歴読み出し点数分の サイズが必要です。 内容の詳細は「①エラー履歴エリア」および 「②履歴データ詳細」を参照してください。



① エラー履歴エリア

エラー履歴は以下の順番で格納されます。

発生したエラー数が 50 個を超えた場合は、古いエラーから削除され常時最新のエラーが格納されます。

エラー履歴エリア	エラー発生数					
	1 個	2 個	～	49 個	50 個	51 個
エラー履歴エリア 1	1 個目のエラー	2 個目のエラー	～	49 個目のエラー	50 個目のエラー	51 個目のエラー
エラー履歴エリア 2	ブランク	1 個目のエラー	～	48 個目のエラー	49 個目のエラー	50 個目のエラー
}	}	}	}	}	}	}
エラー履歴エリア 49	ブランク	ブランク	～	1 個目のエラー	2 個目のエラー	3 個目のエラー
エラー履歴エリア 50	ブランク	ブランク	～	ブランク	1 個目のエラー	2 個目のエラー



② 履歴データ詳細

エラー履歴データ内容がエラー履歴読み出し点数分、デバイスに読み込まれます。

ワードアドレス	データ内容	データ型	説明	備考
xx0 + o_wReadData	発生日時(年月)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 西暦の下 2 桁 下位 8bit: 月)	BCD 形式にて格納 されます。 エラーが発生していない 場合、および日時設定 にて日時を設定して いない場合は、すべて HFFFF です。
xx1 + o_wReadData	発生日時(日時)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 日 下位 8bit: 時(24 時間計))	
xx2 + o_wReadData	発生日時(分秒)	ワード	エラーが発生した日時 (上位 8bit: 分 下位 8bit: 秒)	
xx3 + o_wReadData	稼働時間(日)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (起動から稼働した日数)	BCD 形式にて格納 されます。 エラーが発生していない 場合は、すべて HFFFF です。 ゲートウェイユニットが 起動した時点からの 経過時間です。
xx4 + o_wReadData	稼働時間(時分)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (上位 8bit: 時 下位 8bit: 分)	
xx5 + o_wReadData	稼働時間(秒)	ワード	エラーが発生するまでの時間 (上位 8bit: 秒 下位 8bit: 未使用)	
xx6 + o_wReadData	エラー発生順	ワード	エラーが発生した順序	0~65535
xx7 + o_wReadData	エラーコード	ワード	発生したエラーに対する エラーコード	CC-Link システム／ ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズ マニュアル(詳細編)を 参照してください。

※ xx は、デバイス名称になります。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



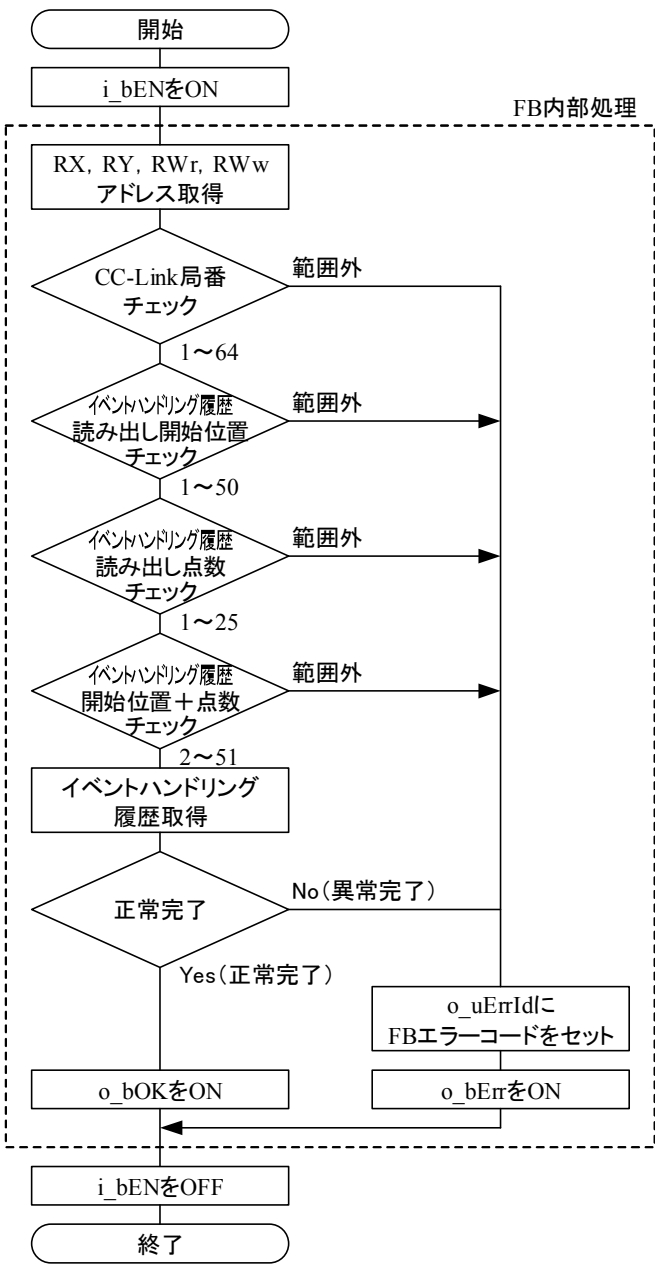
2.10. P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R（イベントハンドリング履歴取得）

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R

機能内容

項目	内容																											
機能概要	イベントハンドリングの実行履歴を取得します。																											
シンボル	<table><tr><td colspan="4">P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R</td></tr><tr><td>実行指令</td><td>B : i_bEN</td><td>o_bENO : B</td><td>実行状態</td></tr><tr><td>マスタユニット装着 XYアドレス</td><td>W : i_wStartIONo</td><td>o_bOK : B</td><td>正常完了</td></tr><tr><td>CC-Link局番</td><td>W : i_wStationNo</td><td>o_bErr : B</td><td>異常完了</td></tr><tr><td>イベントハンドリング履歴 読み出し開始位置</td><td>W : i_wEvtHistStart</td><td>o_uErrId : UW</td><td>エラーコード</td></tr><tr><td>イベントハンドリング履歴 読み出し点数</td><td>W : i_wEvtHistCount</td><td>o_wReadData : W</td><td>イベントハンドリング履歴 読み出しデータ</td></tr></table>				P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R				実行指令	B : i_bEN	o_bENO : B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W : i_wStartIONo	o_bOK : B	正常完了	CC-Link局番	W : i_wStationNo	o_bErr : B	異常完了	イベントハンドリング履歴 読み出し開始位置	W : i_wEvtHistStart	o_uErrId : UW	エラーコード	イベントハンドリング履歴 読み出し点数	W : i_wEvtHistCount	o_wReadData : W	イベントハンドリング履歴 読み出しデータ
P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R																												
実行指令	B : i_bEN	o_bENO : B	実行状態																									
マスタユニット装着 XYアドレス	W : i_wStartIONo	o_bOK : B	正常完了																									
CC-Link局番	W : i_wStationNo	o_bErr : B	異常完了																									
イベントハンドリング履歴 読み出し開始位置	W : i_wEvtHistStart	o_uErrId : UW	エラーコード																									
イベントハンドリング履歴 読み出し点数	W : i_wEvtHistCount	o_wReadData : W	イベントハンドリング履歴 読み出しデータ																									
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G																										
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11																				
		シリーズ	モデル																									
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11																										
	対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU																				
シリーズ		モデル																										
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU																											
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降																					
	シリーズ	モデル																										
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降																											
記述言語	ラダー																											
ステップ数	603 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。																											

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて、イベントハンドリングの実行履歴を取得します。</p>  <pre> graph TD Start([開始]) --> IBENON[i_bENをON] IBENON --> FBBox subgraph FBBox [FB内部処理] RX[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] --> CCLink{CC-Link局番 チェック 1~64} CCLink -- 範囲外 --> SetErr[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] CCLink -- 正常 --> StartPos{イベントハンドリング履歴 読み出し開始位置 チェック 1~50} StartPos -- 範囲外 --> SetErr StartPos -- 正常 --> Count{イベントハンドリング履歴 読み出し点数 チェック 1~25} Count -- 範囲外 --> SetErr Count -- 正常 --> PosSum{イベントハンドリング履歴 開始位置+点数 チェック 2~51} PosSum -- 範囲外 --> SetErr PosSum -- 正常 --> GetHist[イベントハンドリング 履歴取得] GetHist --> Normal{正常完了} Normal -- No(異常完了) --> SetErr Normal -- Yes(正常完了) --> SetOK[o_bOKをON] end SetErr --> SetErrON[o_bErrをON] SetErrON --> IBENOFF[i_bENをOFF] SetOK --> IBENOFF IBENOFF --> End([終了]) </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) イベントハンドリングの実行履歴の取得に成功した場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。</p> <p>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>4) i_wEvtHistStart(イベントハンドリング履歴読み出し開始位置)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>5) i_wEvtHistCount(イベントハンドリング履歴読み出し点数)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) i_wEvtHistStart(イベントハンドリング履歴読み出し開始位置)と i_wEvtHistCount(イベントハンドリング履歴読み出し点数)の組み合わせが正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>7) イベントハンドリングの実行履歴の取得に失敗した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>8) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) ネットワーク構成設定のインテリジェント用バッファ指定(ワード)の受信を 16 ワード×一度に読み出すイベントハンドリング履歴読み出し点数(1～25)分(最大 400 ワード)以上に設定してください。</p> <p>9) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>10) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>11) 本 FB は、トランジェント伝送を使用しています。他のトランジェント伝送を使用する FB の動作中に i_bEN(実行指令)を ON にしないでください。</p> <p>12) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wEvtHistStart (イベントハンドリング履歴読み出し開始位置) i_wEvtHistCount (イベントハンドリング履歴読み出し点数)</p> <p>13) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なっています。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H10B	イベントハンドリング履歴読み出し開始位置が 1～50 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H10C	イベントハンドリング履歴読み出し点数が 1～25 の範囲外です。	
H10D	イベントハンドリング履歴読み出し開始位置と読み出し点数の合計が 51 を超えています。	
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1~64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1~64 になるよう に設定してください。
イベントハンドリング 履歴読み出し開始 位置	i_wEvtHistStart	ワード	1~50	イベントハンドリング履歴を読み出す開始 位置(先頭履歴番号)を指定します。
イベントハンドリング 履歴読み出し点数	i_wEvtHistCount	ワード	1~25	イベントハンドリング履歴を読み出す点数 (履歴数)を指定します。 イベントハンドリング履歴を 26 点以上取得 する場合は, 2 回に分けて取得してください。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。



(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常にイベントハンドリングの 実行履歴を取得できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを 示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコード を返します。
イベントハンドリング 履歴 読み出しデータ	o_wReadData	ワード	—	イベントハンドリングの実行履歴を示します。 16 ワード×イベントハンドリング履歴読み 出し点数分のサイズが必要です。 内容の詳細は「①イベントハンドリング履歴 エリア」および「②履歴データ詳細」を参照 してください。



① イベントハンドリング履歴エリア

イベントハンドリング履歴は以下の順番で格納されます。

発生したイベントハンドリング数が50個を超えた場合は、古いイベントから削除され常時最新のイベントハンドリングが格納されます。

イベントハンドリング 履歴エリア	イベント発生数					
	1 個	2 個	～	49 個	50 個	51 個
イベントハンドリング 履歴エリア 1	1 個目の イベント	2 個目の イベント	～	49 個目の イベント	50 個目の イベント	51 個目の イベント
イベントハンドリング 履歴エリア 2	空白	1 個目の イベント	～	48 個目の イベント	49 個目の イベント	50 個目の イベント
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
イベントハンドリング 履歴エリア 49	空白	空白	～	1 個目の イベント	2 個目の イベント	3 個目の イベント
イベントハンドリング 履歴エリア 50	空白	空白	～	空白	1 個目の イベント	2 個目の イベント

※ 一度に取得できるイベントハンドリング履歴数は最大 25 点です。

26 点以上取得する場合は、2 回に分けて取得してください。



② 履歴データ詳細

イベントハンドリング履歴データ内容がイベントハンドリング履歴読み出し点数分、デバイスに読み込まれます。

ワードアドレス	データ内容	データ型	説明	備考
xx0 + o_wReadData	発生日時(年月)	ワード	イベントが発生した日時 (上位 8bit: 西暦の下 2 桁 下位 8bit: 月)	BCD 形式にて格納されます。 イベントが発生していない場合、および日時設定にて日時を設定していない場合は、すべて HFFFF です。
xx1 + o_wReadData	発生日時(日時)	ワード	イベントが発生した日時 (上位 8bit: 日 下位 8bit: 時(24 時間計))	
xx2 + o_wReadData	発生日時(分秒)	ワード	イベントが発生した日時 (上位 8bit: 分 下位 8bit: 秒)	
xx3 + o_wReadData	稼働時間(日)	ワード	イベントが発生するまでの時間 (起動から稼働した日数)	BCD 形式にて格納されます。
xx4 + o_wReadData	稼働時間(時分)	ワード	イベントが発生するまでの時間 (上位 8bit: 時 下位 8bit: 分)	イベントが発生していない場合は、すべて HFFFF です。
xx5 + o_wReadData	稼働時間(秒)	ワード	イベントが発生するまでの時間 (上位 8bit: 秒 下位 8bit: 未使用)	ゲートウェイユニットが起動した時点からの経過時間です。
xx6 + o_wReadData	イベント発生順	ワード	イベントが発生した順序	0~65535
xx7 + o_wReadData	送受信区分	ワード	ゲートウェイユニットが受信 または送信したかの区分 H0000: イベント受信 H0001: イベント送信	—
xx8+o_wReadData	イベント項目	ワード	H0000: Subscribe (購読開始) H0001: Renew (更新) H0002: Unsubscribe(購読終了) H0003: 受信項目 H0004: 送信項目	H0003 および H0004 の場合、データ内容 (xx13+o_wReadData) にデータ内容コード一覧の値が格納されます。
xx9+o_wReadData	送信元 IP アドレス	ダブルワード	送信元機器の IP アドレス 例: 192.168.0.1 の場合 H0100A8C0	イベント項目 (xx8+o_wReadData) が H0000~H0003 の場合のみ有効です。



ワードアドレス	データ内容	データ型	説明	備考
xx11+o_wReadData	カメラ番号	ワード	対象のカメラ番号	イベント項目 (xx8+o_wReadData)が H0000～H0002 の場合 のみ有効です。
xx12+o_wReadData	イベント番号	ワード	イベント番号 (1～16 または 1～8)	イベント項目 (xx8+o_wReadData)が H0000～H0003 の場合 のみ有効です。
xx13+o_wReadData	データ内容	ワード	「③ データ内容コード一覧」 を参照してください	イベント項目 (xx8+o_wReadData)が H0003 または H0004 の 場合のみ有効です。
xx14+o_wReadData	予約領域	ワード	使用できません	—
xx15+o_wReadData	予約領域	ワード	使用できません	—

※ xx は、デバイス名称になります。

③ データ内容コード一覧

項目	データ内容コード	内容
受信項目	H0004	「ゲートウェイ設定ツール」にて設定したイベントを受信しました。
送信項目	H0004	ユーザーアラーム (UserAlarm)を送信しました。
	H0005	ユーザーイベント (UserEvent)を送信しました。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



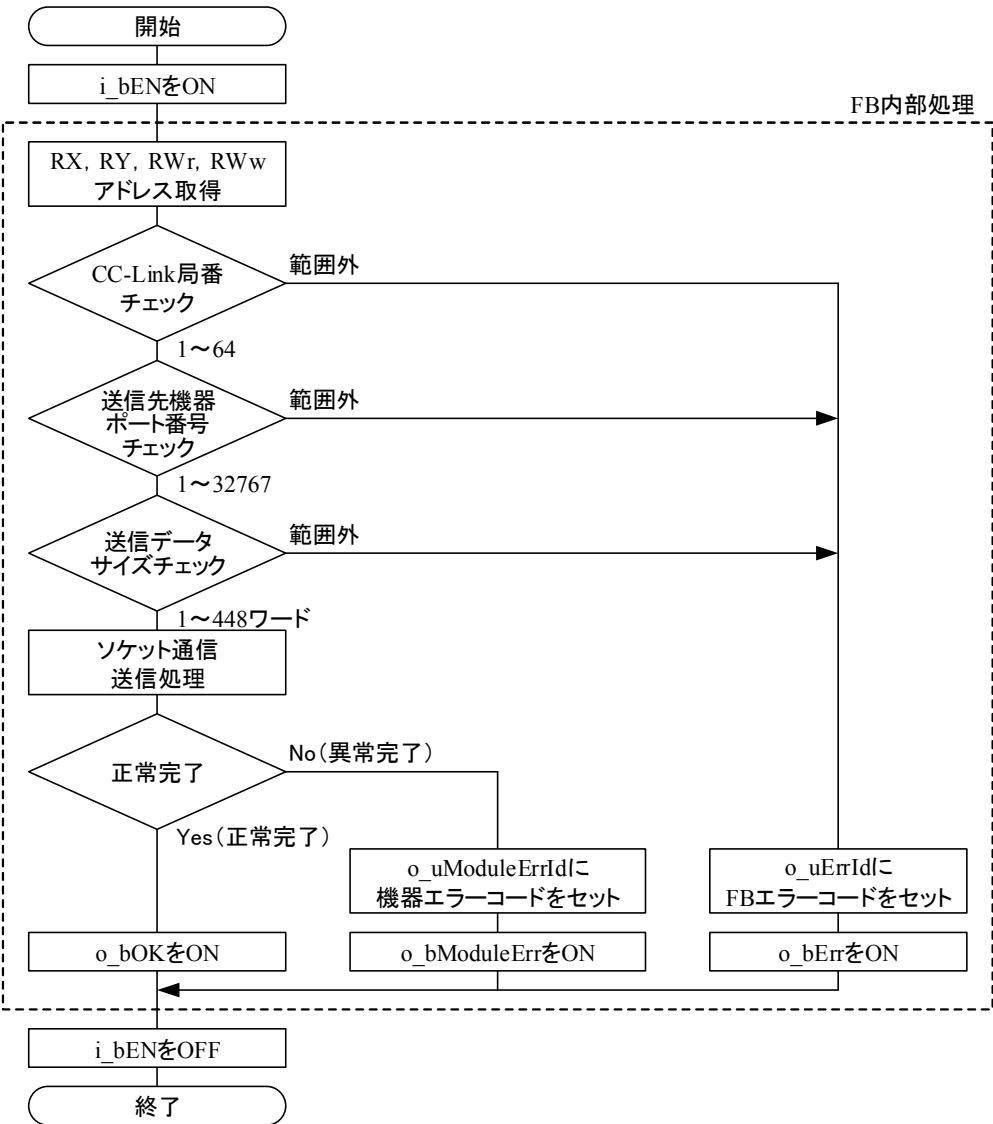
2.11. P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R (ソケット通信 送信)

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R

機能内容

項目	内容																																			
機能概要	ONVIF ネットワーク上の機器へデータを送信します。																																			
シンボル	<table><tr><td colspan="4">P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R</td></tr><tr><td>実行指令</td><td>B : i_bEN</td><td>o_bENO : B</td><td>実行状態</td></tr><tr><td>マスタユニット装着 XYアドレス</td><td>W : i_wStartIONo</td><td>o_bOK : B</td><td>正常完了</td></tr><tr><td>CC-Link局番</td><td>W : i_wStationNo</td><td>o_bErr : B</td><td>異常完了</td></tr><tr><td>送信先機器 IPアドレス</td><td>S : i_s32EtherIPAddr</td><td>o_uErrId : UW</td><td>エラーコード</td></tr><tr><td>送信先機器 ポート番号</td><td>W : i_wEtherPort</td><td>o_bModuleErr : B</td><td>機器異常完了</td></tr><tr><td>送信データサイズ</td><td>W : i_wSize</td><td>o_uModuleErrId : UW</td><td>機器エラーコード</td></tr><tr><td>送信データ</td><td>W : i_wSendData</td><td></td><td></td></tr></table>				P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R				実行指令	B : i_bEN	o_bENO : B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W : i_wStartIONo	o_bOK : B	正常完了	CC-Link局番	W : i_wStationNo	o_bErr : B	異常完了	送信先機器 IPアドレス	S : i_s32EtherIPAddr	o_uErrId : UW	エラーコード	送信先機器 ポート番号	W : i_wEtherPort	o_bModuleErr : B	機器異常完了	送信データサイズ	W : i_wSize	o_uModuleErrId : UW	機器エラーコード	送信データ	W : i_wSendData		
P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R																																				
実行指令	B : i_bEN	o_bENO : B	実行状態																																	
マスタユニット装着 XYアドレス	W : i_wStartIONo	o_bOK : B	正常完了																																	
CC-Link局番	W : i_wStationNo	o_bErr : B	異常完了																																	
送信先機器 IPアドレス	S : i_s32EtherIPAddr	o_uErrId : UW	エラーコード																																	
送信先機器 ポート番号	W : i_wEtherPort	o_bModuleErr : B	機器異常完了																																	
送信データサイズ	W : i_wSize	o_uModuleErrId : UW	機器エラーコード																																	
送信データ	W : i_wSendData																																			
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G																																		
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11																												
	シリーズ	モデル																																		
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11																																		
	対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU																												
シリーズ	モデル																																			
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU																																			
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>			シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降																													
シリーズ	モデル																																			
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降																																			
記述言語	ラダー																																			
ステップ数	873 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。																																			

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて, ONVIF ネットワークに接続されている i_s32EtherIPAddr(送信先機器 IP アドレス)にて指定された IP アドレスにソケット通信によるデータ送信をおこないます。 ソケット通信のプロトコルは TCP (Transmission Control Protocol) です。</p>  <pre> graph TD Start([開始]) --> On[i_bENをON] On --> GetAddr[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] GetAddr --> CheckStation{CC-Link局番 チェック 1~64} CheckStation -- 範囲外 --> SetErrId1[o_uModuleErrIdに 機器エラーコードをセット] CheckStation -- 正常 --> CheckPort{送信先機器 ポート番号 チェック 1~32767} CheckPort -- 範囲外 --> SetErrId2[o_uErrIdに FBエラーコードをセット] CheckPort -- 正常 --> CheckSize{送信データ サイズチェック 1~448ワード} CheckSize -- 範囲外 --> SetErrId2 CheckSize -- 正常 --> SendData[ソケット通信 送信処理] SendData --> IsNormal{正常完了} IsNormal -- No(異常完了) --> SetErrId1 IsNormal -- Yes(正常完了) --> SetOk[o_bOKをON] SetOk --> Off[i_bENをOFF] Off --> End([終了]) SetErrId1 --> SetModuleErr[o_bModuleErrをON] SetErrId2 --> SetErr[o_bErrをON] SetModuleErr --> IsNormal SetErr --> IsNormal </pre>

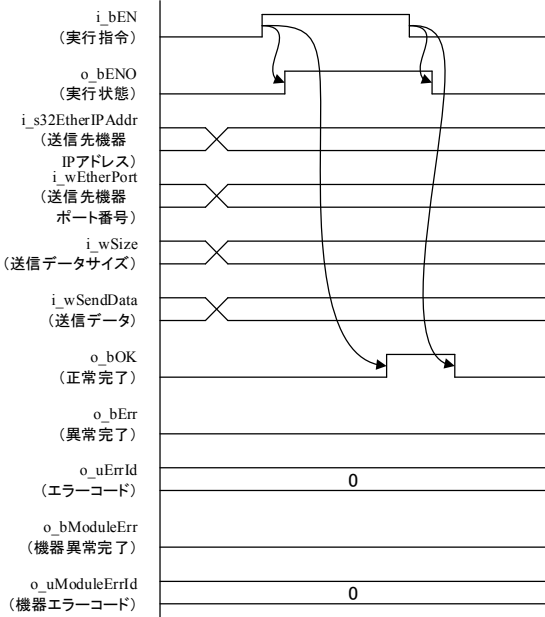
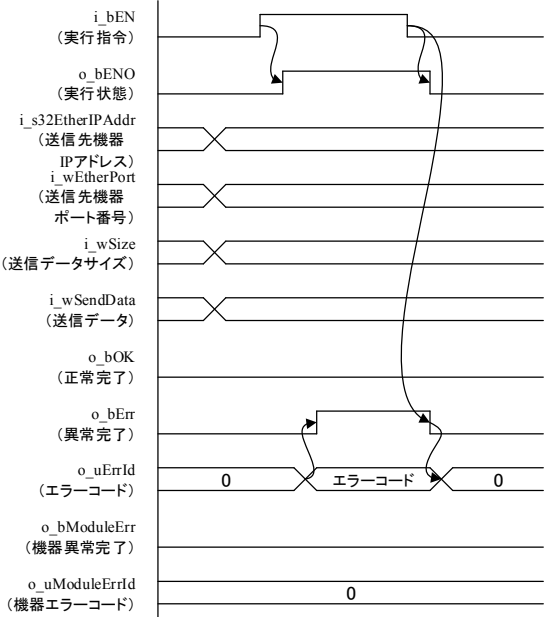
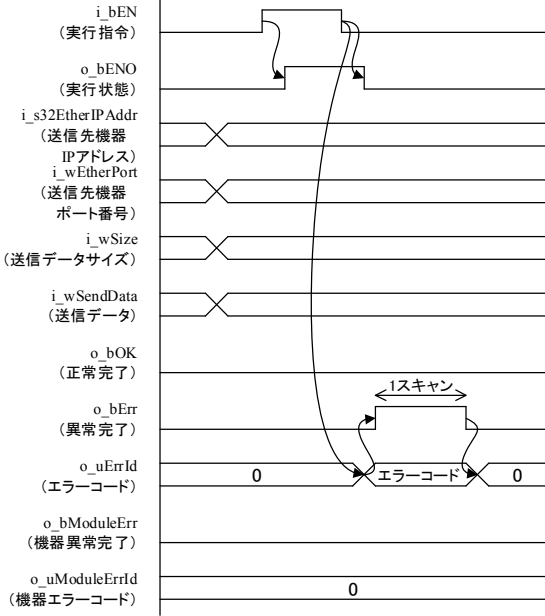
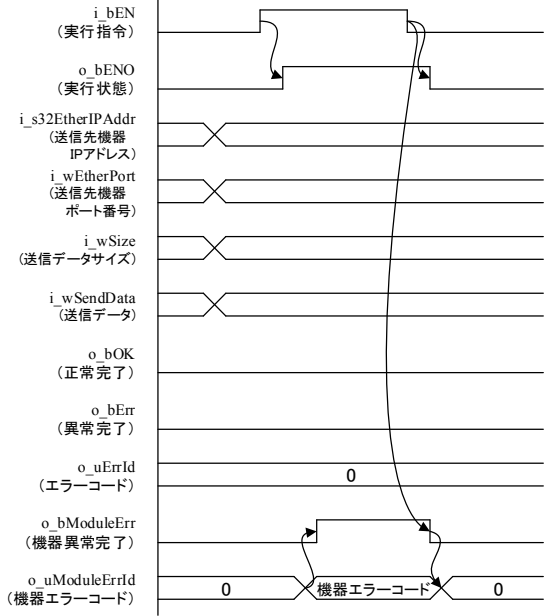


項目	内容
機能説明	<p>2) データ送信に成功(TCP の ACK を受信)した場合は, o_bOK(正常完了)が ON します。ACK の受信タイムアウト時間は約 10 秒です。</p> <p>3) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>4) i_s32EtherIPAddr(送信先機器 IP アドレス)が正しく設定されていない場合は, o_bModuleErr(機器異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_bModuleErrId(機器エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>5) i_wEtherPort(送信先機器ポート番号)が正しく設定されていない場合は, o_bModuleErr(機器異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_bModuleErrId(機器エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) i_wSize(送信データサイズ)が正しく設定されていない場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>7) 機器異常が発生した場合は, o_bModuleErr(機器異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uModuleErrId(機器エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>8) 上記以外のエラーが発生した場合は, o_bErr(異常完了)を ON し, FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) ネットワーク構成設定のインテリジェント用バッファ指定(ワード)の送信を、最大送信データサイズ(1～448 ワード)+32 ワード(固定)分(合計 33～480 ワード)以上に設定してください。</p> <p>9) i_wEtherPort(送信先機器ポート番号)は 1～32767 の範囲で設定できます。32768 以上のポート番号を指定することはできません。また、ウェルノウンポートは判別しておりません(指定可能です)。</p> <p>10) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>11) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>12) 本 FB は、トランジェント伝送を使用しています。他のトランジェント伝送を使用する FB の動作中に i_bEN(実行指令)を ON にしないでください。</p> <p>13) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_s32EtherIPAddr (送信先機器 IP アドレス) i_wEtherPort (送信先機器ポート番号) i_wSize (送信データサイズ) i_wSendData (送信データ)</p> <p>14) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>15) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>16) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】 	【異常完了の場合】 
	【中止の場合】 	【機器異常完了の場合】 



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H10E	送信先機器ポート番号が 1～32767 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H10F	送信データサイズが 1～448 ワードの範囲外です。	
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1~64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1~64 になるよう に設定してください。
送信先機器 IP アドレス	i_s32EtherIPAddr	文字列	—	ソケット通信による送信先機器の IP アドレス を指定します。 30 ワードのエリアが必要です。
送信先機器 ポート番号	i_wEtherPort	ワード	1~32767	ソケット通信による送信先機器の Ethernet ポート番号を指定します。 ※ウェルノウンポートを考慮してください。
送信データサイズ	i_wSize	ワード	1~448	ソケット通信による送信データのサイズ (ワード単位)を指定します。
送信データ	i_wSendData	ワード	—	送信データを設定します。 最大 448 ワードのデータを設定できます。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。



(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常にソケット通信により, データを送信できたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを 示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコード を返します。
機器異常完了	o_bModuleErr	ビット	OFF	ON の場合, 構成機器内で異常が発生した ことを示します。
機器エラーコード	o_uModuleErrId	ワード	0	構成機器内で発生したエラーに対するエラ ーコードを返します。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



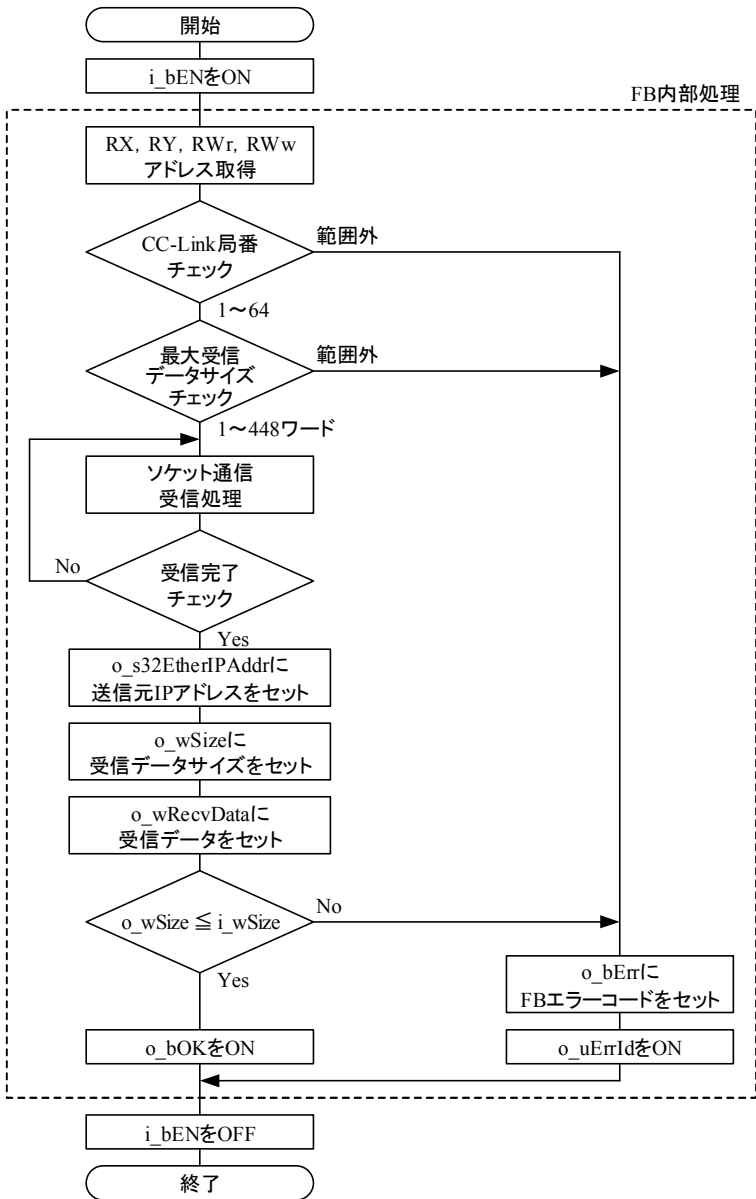
2.12. P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R (ソケット通信 受信)

名称

P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R

機能内容

項目	内容					
機能概要	ONVIF ネットワーク上の機器から受信したデータを読み出します。					
シンボル	<div><div><div>P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R</div><div><div>実行指令</div><div>マスタユニット装着 XYアドレス</div><div>CC-Link局番</div><div>最大受信データサイズ</div></div><div><div>B : i_bEN</div><div>W : i_wStartIONo</div><div>W : i_wStationNo</div><div>W : i_wSize</div></div><div><div>o_bENO : B</div><div>o_bOK : B</div><div>o_bErr : B</div><div>o_uErrId : UW</div><div>o_s32EtherIPAddr : S</div><div>o_wSize : W</div><div>o_wRecvData : W</div></div><div><div>実行状態</div><div>正常完了</div><div>異常完了</div><div>エラーコード</div><div>送信元機器 IPアドレス</div><div>受信データサイズ</div><div>受信データ</div></div></div></div>					
対象機器	対象ユニット	ECL2-NV1G				
	対象 CC-Link システム	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>RJ61BT11</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11
	シリーズ	モデル				
	MELSEC iQ-R シリーズ	RJ61BT11				
対象 CPU	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU					
GX Works3	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC iQ-R シリーズ</td><td>Version 1.015R 以降</td></tr></table>	シリーズ	モデル	MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降	
シリーズ	モデル					
MELSEC iQ-R シリーズ	Version 1.015R 以降					
記述言語	ラダー					
ステップ数	726 Step（MELSEC iQ-R シリーズ R08CPU の場合） ※プログラムに組み込んだFBのステップ数は、使用するCPUモデルや、入出力定義によって異なります。					

項目	内容
機能説明	<p>1) i_bEN(実行指令)の ON にて, ONVIF ネットワークの機器から受信しているデータ内容を読み出します。受信しているデータがない場合は, データを受信するまで待機し, データの受信完了後に読み出しを開始します。</p>  <pre> graph TD Start([開始]) --> IBENON[i_bENをON] IBENON --> FBProc subgraph FBProc [FB内部処理] IBENON --> GetAddr[RX, RY, RWr, RWw アドレス取得] GetAddr --> CCLinkCheck{CC-Link局番 チェック} CCLinkCheck -- 範囲外 --> FBErrSet[o_bErrに FBエラーコードをセット] CCLinkCheck -- 1～64 --> MaxSizeCheck{最大受信 データサイズ チェック} MaxSizeCheck -- 範囲外 --> FBErrSet MaxSizeCheck -- 1～448ワード --> SocketComm[ソケット通信 受信処理] SocketComm --> RecvCompCheck{受信完了 チェック} RecvCompCheck -- No --> RecvCompCheck RecvCompCheck -- Yes --> SetIP[o_s32EtherIPAddrに 送信元IPアドレスをセット] SetIP --> SetWSize[o_wSizeに 受信データサイズをセット] SetWSize --> SetWRecvData[o_wRecvDataに 受信データをセット] SetWRecvData --> WSizeCheck{o_wSize ≤ i_wSize} WSizeCheck -- No --> FBErrSet WSizeCheck -- Yes --> OBOKON[o_bOKをON] end FBErrSet --> OUErrIdON[o_uErrIdをON] OUErrIdON --> IBENOFF[i_bENをOFF] OBOKON --> IBENOFF IBENOFF --> End([終了]) </pre>



項目	内容
機能説明	<p>2) 受信データの読み出しに成功した場合は、o_bOK(正常完了)が ON します。 o_wRecvData(受信データ), o_s32EtherIPAddr(送信元機器 IP アドレス), o_wSize(受信データサイズ)にデータが格納されます。</p> <p>3) o_bOK(正常完了)が ON になった後、次のデータを受信するためには、i_bEN(実行指令)を OFF にする必要があります。</p> <p>4) データの読み出しが完了するまでの間は、o_bENO(実行状態)が ON した状態のまま、o_bOK(正常完了)が ON しません。</p> <p>5) i_wStationNo(CC-Link 局番)が正しく設定されていない場合は、o_bErr(異常完了)を ON し、FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>6) i_wSize(最大受信データサイズ)が正しく設定されていない場合は、o_bErr(異常完了)を ON し、FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p> <p>7) i_wSize(最大受信データサイズ)で設定した値より大きなサイズのデータを受信した場合は、o_bErr(異常完了)を ON し、i_wSize(最大受信データサイズ)で設定したデータサイズ(ワード)分の受信データのみを o_wRecvData(受信データ)に格納します。</p> <p>8) 上記以外のエラーが発生した場合は、o_bErr(異常完了)を ON し、FB の処理を中止します。o_uErrId(エラーコード)にエラーコードが格納されます。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型



項目	内容
制約事項、 注意事項 等	<p>1) 本 FB は、エラー復旧処理を含んでいません。 エラー復旧処理については、お客様のシステムや要求動作に応じて、別途作成してください。</p> <p>2) 割り込みプログラム内で、本 FB を使用することはできません。</p> <p>3) 本 FB は、i_bEN(実行指令)の ON から o_bOK(正常完了)が ON するまで数スキャン必要です。</p> <p>4) i_bEN(実行指令)を ON する場合は、o_bOK(正常完了)および o_bErr(異常完了)が OFF していることを確認してください。</p> <p>5) 本 FB は、インデックスレジスタ Z8～Z9 を使用しています。</p> <p>6) 本 FB は、すべての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>7) ユニットパラメータ設定を項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>8) ネットワーク構成設定のインテリジェント用バッファ指定(ワード)の受信を、最大受信データサイズ(1～448 ワード)+32 ワード(固定)分(合計 33～480 ワード)以上に設定してください。</p> <p>9) グローバルラベルの設定を項「1.5. グローバルラベルの設定」にしたがっておこなってください。</p> <p>10) 本 FB は、インタロックプログラムが必要です。 インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。</p> <p>11) 本 FB は、トランジェント伝送を使用しています。他のトランジェント伝送を使用する FB の動作中に i_bEN(実行指令)を ON にしないでください。</p> <p>12) i_bEN(実行指令)の ON 中は、以下の値を変更しないでください。 i_wStartIONo (マスタユニット装着 XY アドレス) i_wStationNo (CC-Link 局番) i_wSize (最大受信データサイズ)</p> <p>13) 本 FB は、内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しています。そのため、本 FB を複数使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>14) 本 FB は、1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB にて制御する場合は、「付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法」を参照してください。</p> <p>15) ラベルコメントは、GX Works3 の表示可能文字数制限により、省略形で記載していることがあります。</p>
FB 動作	パルス実行型 (複数スキャン実行型)
使用例	「付録 1. FB ライブラリ使用例」を参照してください。



項目	内容	
入出力 信号の 動き	【正常完了の場合】	【異常完了の場合】
	【中止の場合】	



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H110	最大受信データサイズが 1～448 ワードの範囲外です。	設定を見直した後、再度 FB を実行してください。
H111	最大受信データサイズで設定した値より、大きいデータを受信しました。	最大受信データサイズに受信するデータ以上の値を設定してください。
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。 ※ 1 スキャンのみ出力	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



使用ラベル

(1) 入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行指令	i_bEN	ビット	ON, OFF	ON : FB を実行する OFF : FB を実行しない
マスタユニット装着 XY アドレス	i_wStartIONo	ワード	(※1)	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが 装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数 で指定します。 (例: X10 の場合, H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_wStationNo	ワード	1~64	ゲートウェイユニットの局番を指定します。 占有局数を含んだ局番が 1~64 になるよう に設定してください。
最大 受信データサイズ	i_wSize	ワード	1~448	ソケット通信による受信データの最大サイズ (ワード単位)を指定します。

※1 対象の CPU ユニットの入出力点数により決まります。CPU ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

(2) 出カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	o_bENO	ビット	OFF	ON : FB 動作実行中 OFF : FB 動作停止中
正常完了	o_bOK	ビット	OFF	ON の場合, 正常にソケット通信で受信した データを読み出しできたことを示します。
異常完了	o_bErr	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを 示します。
エラーコード	o_uErrId	ワード	0	FB 内で発生したエラーに対するエラーコード を返します。
送信元機器 IP アドレス	o_s32EtherIPAddr	文字列	—	データ送信元機器の IP アドレスが格納され ます。 30 ワードのエリアが必要です。
受信データサイズ	o_wSize	ワード	0	受信したデータのサイズ(ワード単位)が 格納されます。
受信データ	o_wRecvData	ワード	—	受信したデータを格納します。 最大で 448 ワードのエリアが必要です。



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
00A	2017/04/06	新規作成

お願い

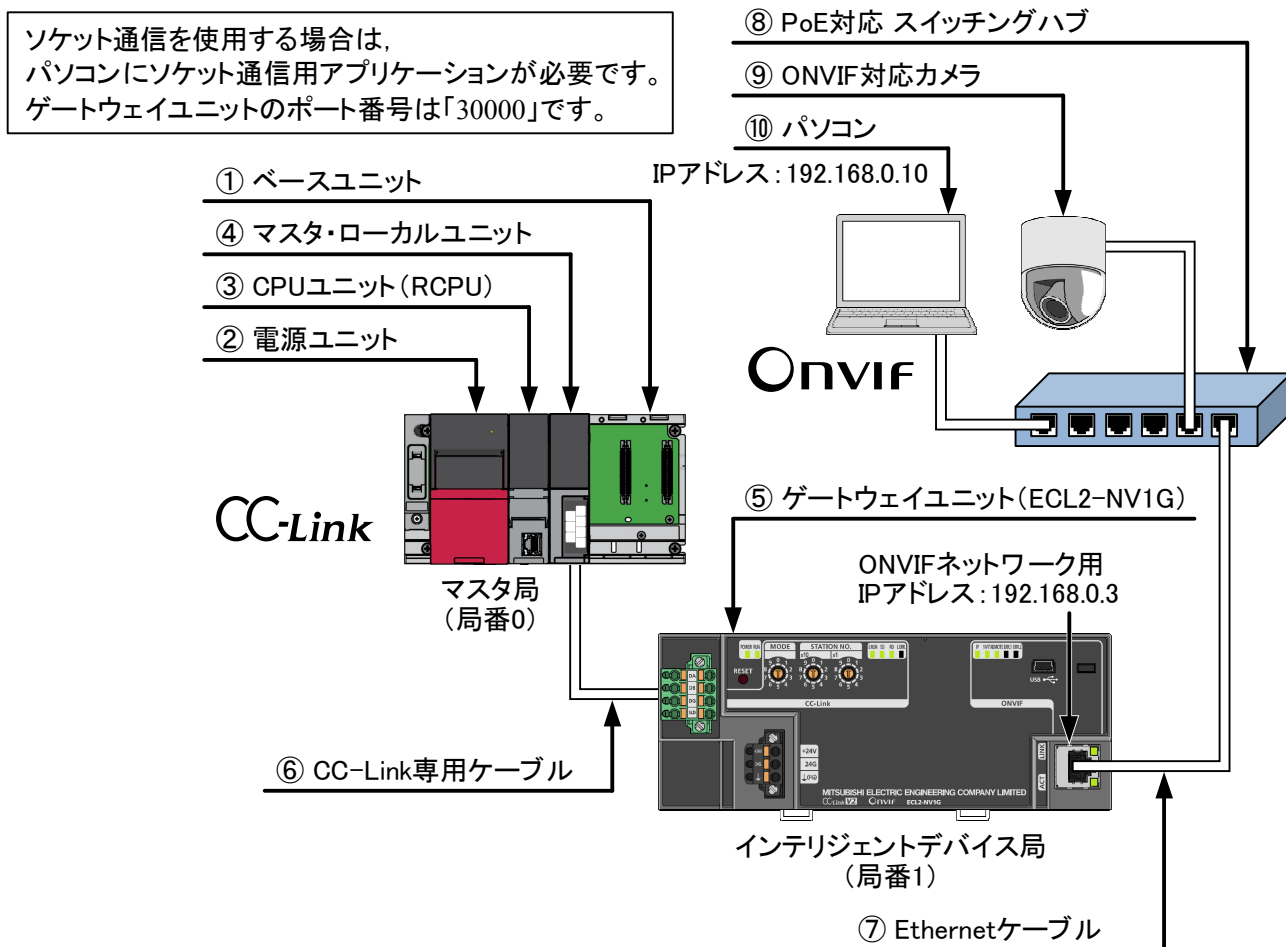
本章はファンクションブロックの機能を説明しています。

ユニットやシーケンサ CPU についての使用上の制限事項，組み合わせによる制限事項などについては記載していません。ご使用の前に，必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みください。



付録 1. FB ライブラリ使用例

付録 1.1. システム構成例



No.	機器名	説明
①	CC-Link システムマスタ局	ベースユニット
②		電源ユニット
③		CPU ユニット
④		CC-Link システムマスタ・ローカルユニット
⑤	ゲートウェイユニット	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット
⑥	CC-Link 専用ケーブル	CC-Link 用ケーブル
⑦	Ethernet ケーブル	カテゴリ 5e 以上の Ethernet ケーブル
⑧	PoE 対応スイッチングハブ	Power over Ethernet 対応 スwitchングハブユニット ※ゲートウェイユニットは非 PoE ポートに接続してください。
⑨	ONVIF 対応カメラ	ONVIF 規格準拠ネットワークカメラ
⑩	パソコン	Windows パソコン



付録 1.2. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定

本項の例では、必須設定、ネットワーク構成設定、リンクリフレッシュ設定を以下のように割り付けます。

(1) 必須設定

項目	設定
局種別設定	
局種別	マスタ局
モード設定	
モード	リモートネット Ver.2モード
局番設定	
局番	0
伝送速度設定	
伝送速度	10Mbps
パラメータ設定方法	
基本設定/応用設定の設定方法	パラメータで設定

説明
局種別を設定します。

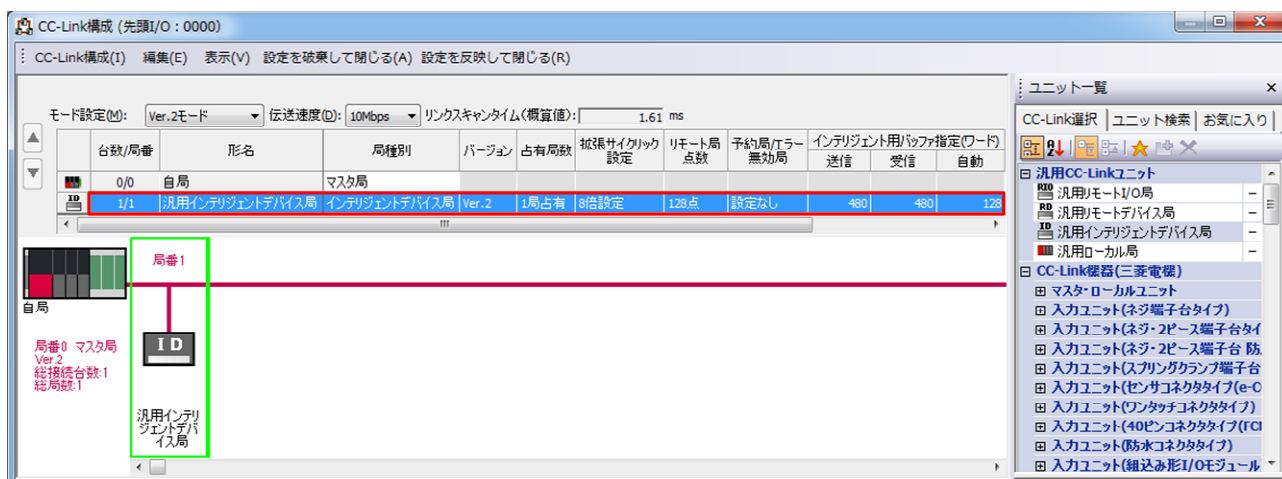
項目一覧 検索結果

チェック(K) デフォルトに戻す(U) 適用(A)



(2) 基本設定

① ネットワーク構成設定



② リンクリフレッシュ設定

No.	リンク側					CPU側				
	デバイス名	点数	先頭	最終		リフレッシュ先	デバイス名	点数	先頭	最終
-	SB	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	SB	512	00000	001FF
-	SW	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	SW	512	00000	001FF
1	RX	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	X	512	01000	011FF
2	RY	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	Y	512	01000	011FF
3	RWr	256	00000	000FF	↔	指定デバイス	W	256	00000	000FF
4	RWw	256	00000	000FF	↔	指定デバイス	W	256	00400	004FF
5					↔					



付録 1.3. グローバルラベルの設定

(1) 共通設定

クラス	ラベル名	データ型	デバイス
VAR_GLOBAL	M_RY	ビット	Y1000Z9
VAR_GLOBAL	M_RWw	ワード[符号付き]	W400Z8



付録 1.4. 使用デバイス一覧

(1) 外部入力(指令)

デバイス	FB 名称	用途 (ON 時の内容)
M112	P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R	日時設定要求
M100	P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R	カメラ位置移動要求
M101	P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R	カメラ生存チェック要求
M102	P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R	カメラ位置取得要求
M103	P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R	イベント送信要求
M104		イベント文字列セット
M105	P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R	イベント受信要求
M106	P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R	CC-Link エラー履歴取得要求
M107	P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R	ONVIF エラー履歴取得要求
M108	P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R	ユニットエラー履歴取得要求
M109	P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R	イベントハンドリング履歴取得要求
M110	P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R	ソケット通信 送信要求
M111	P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R	ソケット通信 受信要求

(2) 外部デバイス(データ)

デバイス	FB 名称	用途 (ON 時の内容)
D2000～D2031	P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R	送信データ(ソース)
D2032～D2063		送信データ(データ 1)
D2064～D2095		送信データ(データ 2)
D2096～D2127		送信データ(データ 3)
D3000～D3447	P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R	ソケット通信送信データ



(3) 外部出力(確認)

デバイス	FB 名称	用途 (ON 時の内容)
M1300	P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R	FB 実行中
M1301		正常完了
M1302		異常完了
D1300		エラーコード
M200	P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R	FB 実行中
M201		正常完了
M202		異常完了
M203		機器異常完了
M204		カメラ Busy 状態
D200		エラーコード
D201		機器エラーコード
M300	P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R	FB 実行中
M301		正常完了
M302		異常完了
M303		機器異常完了
D300		エラーコード
D301		機器エラーコード
M400	P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R	FB 実行中
M401		正常完了
M402		異常完了
M403		機器異常完了
D400		カメラ位置番号
D401		エラーコード
D402		機器エラーコード
M500	P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R	FB 実行中
M501		正常完了
M502		異常完了
D500		エラーコード



デバイス	FB 名称	用途（ON 時の内容）
M600	P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEvent_R	FB 実行中
M601		正常完了
M602		異常完了
D600		エラーコード
D4000～D4002		日時データ
D4100～D4131		受信データ(ソース)
D4132～D4163		受信データ(データ 1)
D4164～D4195		受信データ(データ 2)
D4196～D4227		受信データ(データ 3)
M700	P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R	FB 実行中
M701		正常完了
M702		異常完了
D700		エラーコード
D4500～D4579		CC-Link エラー履歴読み出しデータ
M800	P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R	FB 実行中
M801		正常完了
M802		異常完了
D800		エラーコード
D5000～D5089		ONVIF エラー履歴読み出しデータ
M900	P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R	FB 実行中
M901		正常完了
M902		異常完了
D900		エラーコード
D5500～D5579		ユニットエラー履歴読み出しデータ
M1000	P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R	FB 実行中
M1001		正常完了
M1002		異常完了
D1000		エラーコード
D2500～D2659		イベントハンドリング履歴読み出しデータ



デバイス	FB 名称	用途（ON 時の内容）
M1100	P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R	FB 実行中
M1101		正常完了
M1102		異常完了
M1103		機器異常完了
D1100		エラーコード
D1101		機器エラーコード
M1200	P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R	FB 実行中
M1201		正常完了
M1202		異常完了
D1200		エラーコード
D1201		受信データサイズ
D1202～D1231		送信元機器 IP アドレス
D3500～D3947		ソケット通信受信データ

(4) 共通設定

入出力項目	値	説明
マスタユニット装着 XY アドレス	H0	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数で指定します。
CC-Link 局番	K1	接続するゲートウェイユニットの局番を入力します。



付録 1.5. プログラム

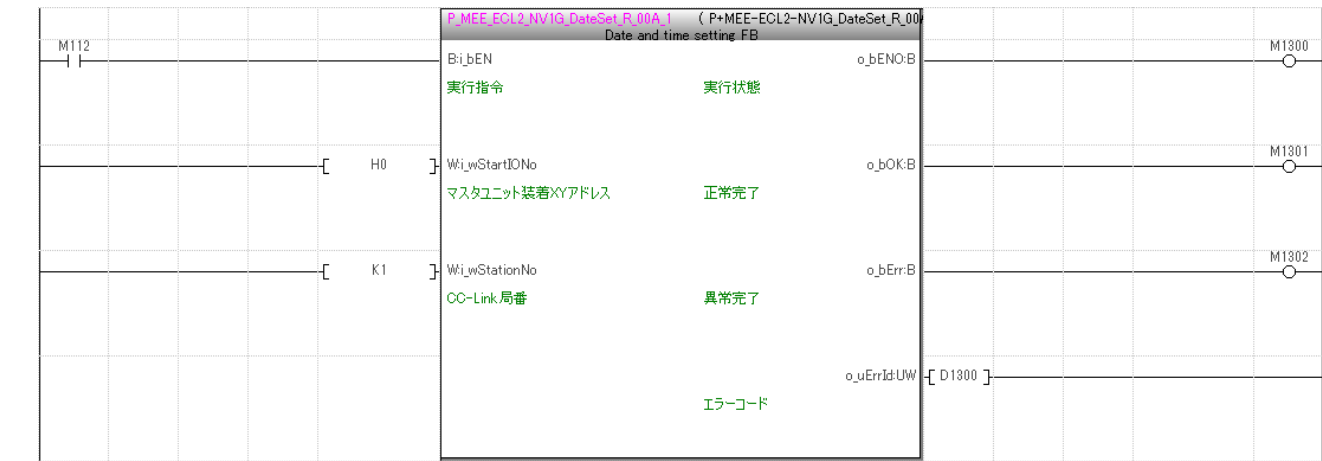
すべての入カラベルにおいて回路の設定が必要です。設定しない場合、FB は正しく動作できません。
インタロックプログラムに関しては、項「1.6. インタロックプログラムの作成」を参照してください。

付録 1.5.1. P+MEE-ECL2-NV1G_DateSet_R（日時設定）

本項の例では、入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1

M112 を ON にすると、上記の条件にて日時設定をおこなうプログラムの例を示します。



付録 1.5.2. P+MEE-ECL2-NV1G_AbsoluteMove_R (カメラ位置移動)

本項の例では、入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
カメラ番号	K1
カメラ位置番号	K2
パンチルトスピード	K10
ズームスピード	K10

M100 を ON にすると、上記の条件にてカメラ位置移動をおこなうプログラムの例を示します。



付録 1.5.3. P+MEE-ECL2-NV1G_ChkAliveCam_R (カメラ生存チェック)

本項の例では, 入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
カメラ番号	K1

M101 を ON にすると, 上記の条件にてカメラ生存チェックをおこなうプログラムの例を示します。

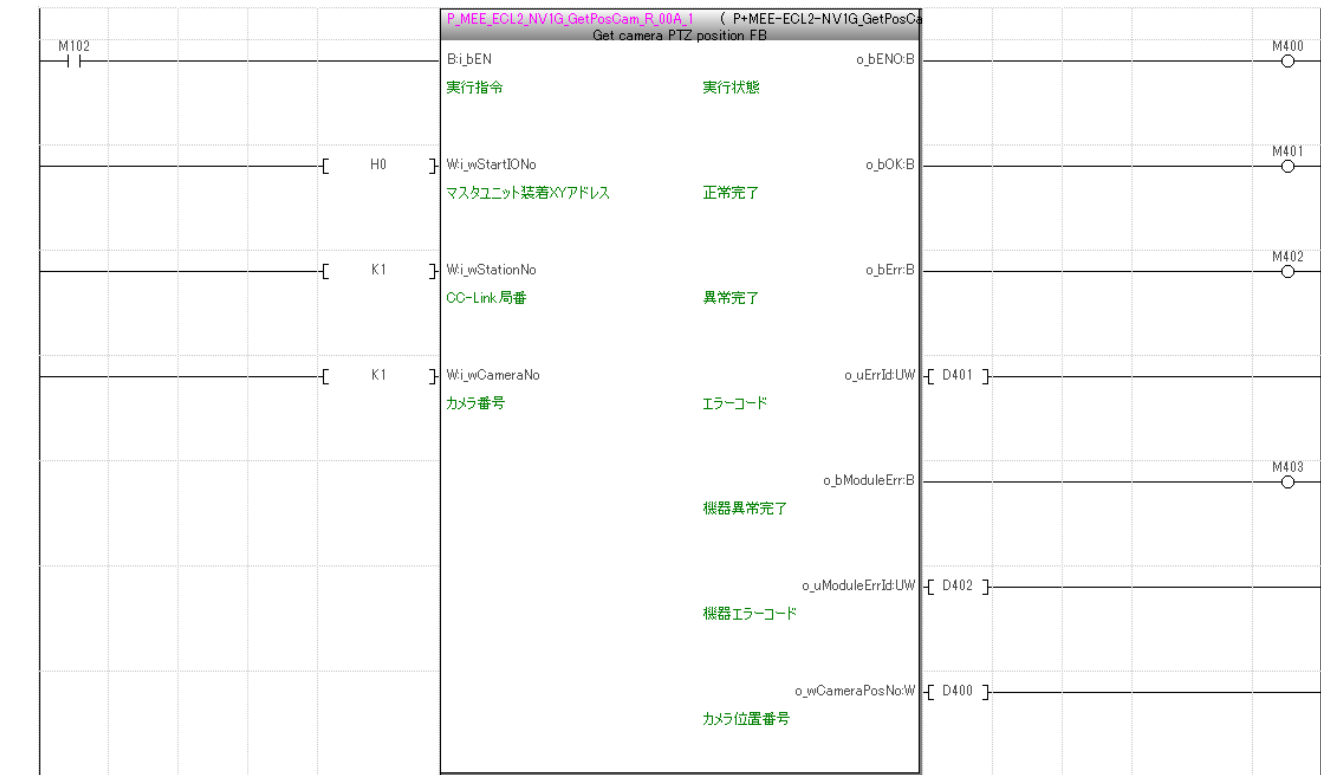


付録 1.5.4. P+MEE-ECL2-NV1G_GetPosCam_R (カメラ位置取得)

本項の例では、入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
カメラ番号	K1

M102 を ON にすると、上記の条件にてカメラ位置取得をおこなうプログラムの例を示します。



付録 1.5.5. P+MEE-ECL2-NV1G_SendEvent_R (イベント送信)

本項の例では、入力ラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
アクセスコード	H0B

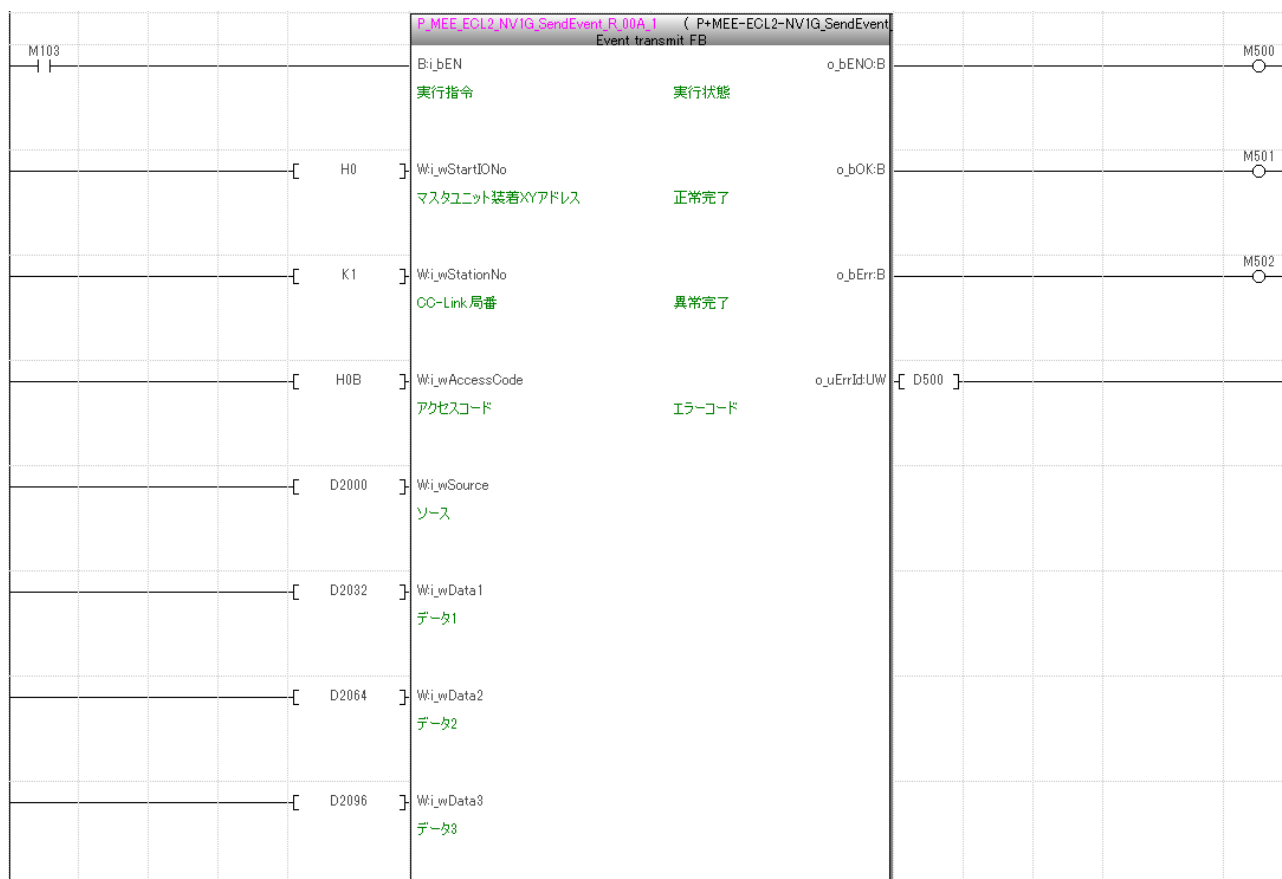
M104 を ON にすると、以下の送信データの設定をおこないます。

デバイス	内容	データ型	データサイズ	設定値
D2000～D2031	ソース	ワード	32 ワード	“INTRUSION”
D2032～D2063	データ 1	ワード	32 ワード	“FLOOR_3”
D2064～D2095	データ 2	ワード	32 ワード	“AREA_2”
D2096～D2127	データ 3	ワード	32 ワード	“SENSOR_5”

Module	Address	Operation	Value	Comment
M104	0x0000	\$MOV	0x0000	"INTRUSION"
	0x0001	\$MOV	0x0001	"FLOOR_3"
	0x0002	\$MOV	0x0002	"AREA_2"
	0x0003	\$MOV	0x0003	"SENSOR_5"



M103 を ON にすると, 前ページの条件にてイベント送信をおこなうプログラムの例を示します。



付録 1.5.6. P+MEE-ECL2-NV1G RecvEvent R (イベント受信)

本項の例では、入力ラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
イベント受信番号	K1

M105 を ON にすると、上記の条件にて受信したイベント内容の読み出しをおこなうプログラムの例を示します。



受信データ内容

デバイス	データ内容	データ型	説明	備考
D4000	発生日時(年月)	ワード	イベントが発生した日時 <div> <div>上位 8bit: 西暦の下 2 桁</div> <div>下位 8bit: 月</div> </div>	BCD 形式にて格納されます。 日時設定にて日時を設定していない場合は、すべて HFFFF です。
D4001	発生日時(日時)	ワード	イベントが発生した日時 <div> <div>上位 8bit: 日</div> <div>下位 8bit: 時(24 時間計)</div> </div>	
D4002	発生日時(分秒)	ワード	イベントが発生した日時 <div> <div>上位 8bit: 分</div> <div>下位 8bit: 秒</div> </div>	
D4100～D4131	ソース	ワード	Source のデータ文字列	32 ワード(64Byte)
D4132～D4163	データ 1	ワード	Data1 のデータ文字列	32 ワード(64Byte)
D4164～D4195	データ 2	ワード	Data2 のデータ文字列	32 ワード(64Byte)
D4196～D4227	データ 3	ワード	Data3 のデータ文字列	32 ワード(64Byte)

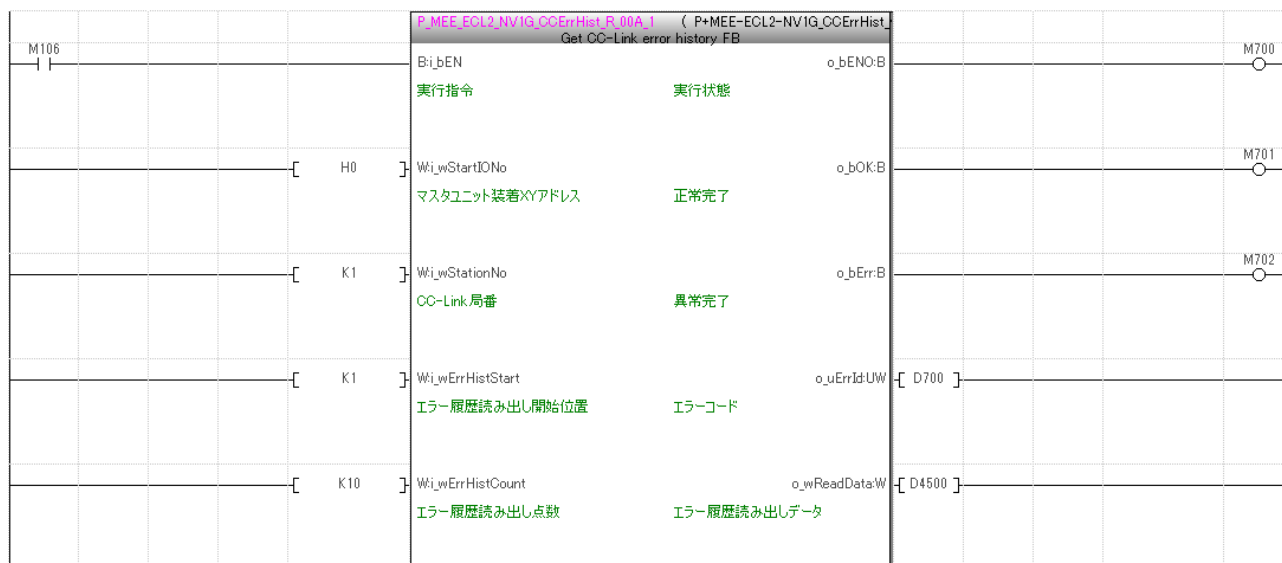


付録 1.5.7. P+MEE-ECL2-NV1G_CCErrHist_R (CC-Link エラー履歴取得)

本項の例では、入力ラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
エラー履歴読み出し開始位置	K1
エラー履歴読み出し点数	K10

M106 を ON にすると、上記の条件にて CC-Link システムのエラー履歴の取得をおこなうプログラムの例を示します。



(1) エラー履歴読み出しデータ (o_wReadData)

エラー履歴データ内容がエラー履歴読み出し点数分、デバイスに読み込まれます。

デバイス	データ内容	データ型	説明	備考
D4500	発生日時(年月)	ワード	エラーが発生した日時 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 西暦の下 2 桁} \\ \text{下位 8bit: 月} \end{array} \right)$	BCD 形式にて格納されます。 エラーが発生していない場合、および日時設定にて日時を設定していない場合は、すべて HFFFF です。
D4501	発生日時(日時)	ワード	エラーが発生した日時 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 日} \\ \text{下位 8bit: 時(24 時間計)} \end{array} \right)$	
D4502	発生日時(分秒)	ワード	エラーが発生した日時 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 分} \\ \text{下位 8bit: 秒} \end{array} \right)$	
D4503	稼働時間(日)	ワード	エラーが発生するまでの時間 $\left(\begin{array}{l} \text{起動から稼働した日数} \end{array} \right)$	BCD 形式にて格納されます。 エラーが発生していない場合は、すべて HFFFF です。 ゲートウェイユニットが起動した時点からの経過時間です。
D4504	稼働時間(時分)	ワード	エラーが発生するまでの時間 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 時} \\ \text{下位 8bit: 分} \end{array} \right)$	
D4505	稼働時間(秒)	ワード	エラーが発生するまでの時間 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 秒} \\ \text{下位 8bit: 未使用} \end{array} \right)$	
D4506	エラー発生順	ワード	エラーが発生した順序	0～65535
D4507	エラーコード	ワード	発生したエラーに対するエラーコード	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。

※ エラー履歴エリア 1 の内容のみ記載してあります。

エラー履歴エリア 2 以降は、エラー履歴エリア 1 の後より繰り返し保存されます。



(2) エラー履歴エリア

本項の例では、エラー履歴エリア数を最大 50 点のうち 10 点使用しています。

デバイス	内容
D4500～D4507	エラー履歴エリア 1
D4508～D4515	エラー履歴エリア 2
D4516～D4523	エラー履歴エリア 3
⋮	⋮
D4572～D4579	エラー履歴エリア 10



付録 1.5.8. P+MEE-ECL2-NV1G_ONVIFErrHist_R (ONVIF エラー履歴取得)

本項の例では、入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
エラー履歴読み出し開始位置	K1
エラー履歴読み出し点数	K10

M107を ON にすると、上記の条件にて ONVIF ネットワークのエラー履歴の取得をおこなうプログラムの例を示します。



(1) エラー履歴読み出しデータ (o_wReadData)

エラー履歴データ内容がエラー履歴読み出し点数分、デバイスに読み込まれます。

デバイス	データ内容	データ型	説明	備考
D5000	発生日時(年月)	ワード	エラーが発生した日時 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 西暦の下 2 桁} \\ \text{下位 8bit: 月} \end{array} \right)$	BCD 形式にて格納されます。 エラーが発生していない場合、および日時設定にて日時を設定していない場合は、すべて HFFFF です。
D5001	発生日時(日時)	ワード	エラーが発生した日時 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 日} \\ \text{下位 8bit: 時(24 時間計)} \end{array} \right)$	
D5002	発生日時(分秒)	ワード	エラーが発生した日時 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 分} \\ \text{下位 8bit: 秒} \end{array} \right)$	
D5003	稼働時間(日)	ワード	エラーが発生するまでの時間 $\left(\begin{array}{l} \text{起動から稼働した日数} \end{array} \right)$	BCD 形式にて格納されます。 エラーが発生していない場合は、すべて HFFFF です。 ゲートウェイユニットが起動した時点からの経過時間です。
D5004	稼働時間(時分)	ワード	エラーが発生するまでの時間 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 時} \\ \text{下位 8bit: 分} \end{array} \right)$	
D5005	稼働時間(秒)	ワード	エラーが発生するまでの時間 $\left(\begin{array}{l} \text{上位 8bit: 秒} \\ \text{下位 8bit: 未使用} \end{array} \right)$	
D5006	エラー発生順	ワード	エラーが発生した順序	0～65535
D5007	エラーコード	ワード	発生したエラーに対するエラーコード	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
D5008	カメラ番号	ワード	0, エラーが発生したカメラのカメラ番号(1～16)	カメラに関与しないエラーの場合は 0 となります。

※ エラー履歴エリア 1 の内容のみ記載してあります。

エラー履歴エリア 2 以降は、エラー履歴エリア 1 の後より繰り返し保存されます。



(2) エラー履歴エリア

本項の例では、エラー履歴エリア数を最大 50 点のうち 10 点使用しています。

デバイス	内容
D5000～D5008	エラー履歴エリア 1
D5009～D5017	エラー履歴エリア 2
D5016～D5026	エラー履歴エリア 3
⋮	⋮
D5081～D5089	エラー履歴エリア 10



付録 1.5.9. P+MEE-ECL2-NV1G_UnitErrHist_R（ユニットエラー履歴取得）

本項の例では、入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
エラー履歴読み出し開始位置	K1
エラー履歴読み出し点数	K10

M108 を ON にすると、上記の条件にてユニットのエラー履歴の取得をおこなうプログラムの例を示します。



(1) エラー履歴読み出しデータ (o_wReadData)

エラー履歴データ内容がエラー履歴読み出し点数分、デバイスに読み込まれます。

デバイス	データ内容	データ型	説明	備考
D5500	発生日時(年月)	ワード	エラーが発生した日時 （上位 8bit: 西暦の下 2 桁 下位 8bit: 月）	BCD 形式にて格納 されます。 エラーが発生していない 場合、および日時設定 にて日時を設定して いない場合は、すべて HFFFF です。
D5501	発生日時(日時)	ワード	エラーが発生した日時 （上位 8bit: 日 下位 8bit: 時(24 時間計)）	
D5502	発生日時(分秒)	ワード	エラーが発生した日時 （上位 8bit: 分 下位 8bit: 秒）	
D5503	稼働時間(日)	ワード	エラーが発生するまでの時間 （起動から稼働した日数）	BCD 形式にて格納 されます。 エラーが発生していない 場合は、すべて HFFFF です。 ゲートウェイユニットが 起動した時点からの 経過時間です。
D5504	稼働時間(時分)	ワード	エラーが発生するまでの時間 （上位 8bit: 時 下位 8bit: 分）	
D5505	稼働時間(秒)	ワード	エラーが発生するまでの時間 （上位 8bit: 秒 下位 8bit: 未使用）	
D5506	エラー発生順	ワード	エラーが発生した順序	0～65535
D5507	エラーコード	ワード	発生したエラーに対する エラーコード	CC-Link システム／ ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズ マニュアル(詳細編)を 参照してください。

※ エラー履歴エリア 1 の内容のみ記載してあります。

エラー履歴エリア 2 以降は、エラー履歴エリア 1 の後より繰り返し保存されます。



(2) エラー履歴エリア

本項の例では、エラー履歴エリア数を最大 50 点のうち 10 点使用しています。

デバイス	内容
D5500～D5507	エラー履歴エリア 1
D5508～D5515	エラー履歴エリア 2
D5516～D5523	エラー履歴エリア 3
⋮	⋮
D5572～D5579	エラー履歴エリア 10

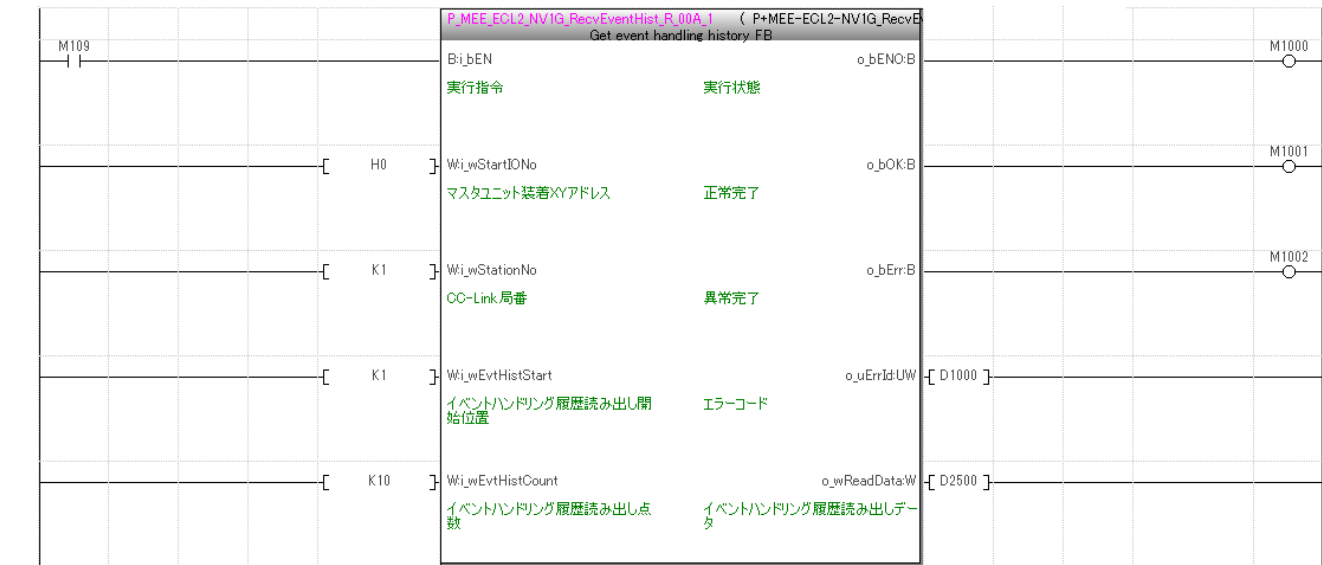


付録 1.5.10. P+MEE-ECL2-NV1G_RecvEventHist_R（イベントハンドリング履歴取得）

本項の例では、入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
イベントハンドリング履歴読み出し開始位置	K1
イベントハンドリング履歴読み出し点数	K10

M109 を ON にすると、上記の条件にてイベントハンドリング履歴の取得をおこなうプログラムの例を示します。



(1) イベントハンドリング履歴読み出しデータ (o_wReadData)

イベントハンドリング履歴データ内容がイベントハンドリング履歴読み出し点数分、デバイスに読み込まれます。

デバイス	データ内容	データ型	説明	備考
D2500	発生日時(年月)	ワード	イベントが発生した日時 <div> <div>上位 8bit: 西暦の下 2 桁</div> <div>下位 8bit: 月</div> </div>	BCD 形式にて格納されます。 イベントが発生していない場合、および日時設定にて日時を設定していない場合は、すべて HFFFF です。
D2501	発生日時(日時)	ワード	イベントが発生した日時 <div> <div>上位 8bit: 日</div> <div>下位 8bit: 時(24 時間計)</div> </div>	BCD 形式にて格納されます。 イベントが発生していない場合は、すべて HFFFF です。
D2502	発生日時(分秒)	ワード	イベントが発生した日時 <div> <div>上位 8bit: 分</div> <div>下位 8bit: 秒</div> </div>	
D2503	稼働時間(日)	ワード	イベントが発生するまでの時間 <div> <div>起動から稼働した日数</div> </div>	
D2504	稼働時間(時分)	ワード	イベントが発生するまでの時間 <div> <div>上位 8bit: 時</div> <div>下位 8bit: 分</div> </div>	ゲートウェイユニットが起動した時点からの経過時間です。
D2505	稼働時間(秒)	ワード	イベントが発生するまでの時間 <div> <div>上位 8bit: 秒</div> <div>下位 8bit: 未使用</div> </div>	
D2506	イベント発生順	ワード	イベントが発生した順序	
D2507	送受信区分	ワード	ゲートウェイユニットが受信または送信したかの区分 H0000: イベント受信 H0001: イベント送信	—
D2508	イベント項目	ワード	H0000: Subscribe (購読開始) H0001: Renew (更新) H0002: Unsubscribe (購読終了) H0003: 受信項目 H0004: 送信項目	H0003 および H0004 の場合、データ内容 (D2513) にデータ内容コード一覧の値が格納されます。
D2509	送信元 IP アドレス	ダブルワード	送信元機器の IP アドレス 例: 192.168.0.1 の場合 H0100A8C0	イベント項目 (D2508) が H0000～H0003 の場合のみ有効です。



デバイス	データ内容	データ型	説明	備考
D2511	カメラ番号	ワード	対象のカメラ番号	イベント項目（D2508）が H0000～H0002 の場合のみ有効です。
D2512	イベント番号	ワード	イベント番号 （1～16 または 1～8）	イベント項目（D2508）が H0000～H0003 の場合のみ有効です。
D2513	データ内容	ワード	項「2.10(2)③ データ内容コード一覧」を参照してください	イベント項目（D2508）が H0003 または H0004 の場合のみ有効です。
D2514	予約領域	ワード	使用できません	—
D2515	予約領域	ワード	使用できません	—

※ イベントハンドリング履歴エリア 1 の内容のみ記載してあります。

イベントハンドリング履歴エリア 2 以降は、イベントハンドリング履歴エリア 1 の後より繰り返し保存されます。

(2) イベントハンドリング履歴エリア

本項の例では、イベントハンドリング履歴エリア数を最大 50 点のうち 10 点使用しています。

デバイス	内容
D2500～D2515	イベントハンドリング履歴エリア 1
D2516～D2531	イベントハンドリング履歴エリア 2
D2532～D2547	イベントハンドリング履歴エリア 3
⋮	⋮
D2644～D2659	イベントハンドリング履歴エリア 10

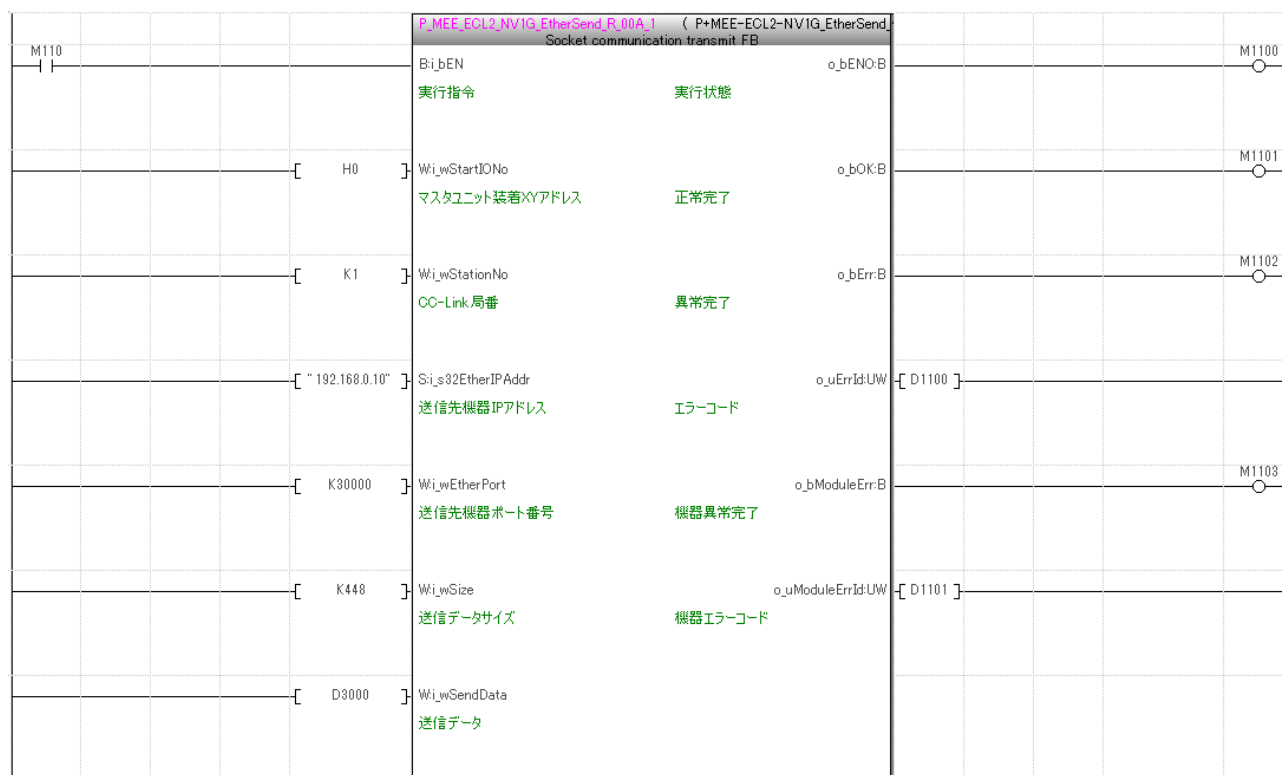


付録 1.5.11. P+MEE-ECL2-NV1G_EtherSend_R (ソケット通信 送信)

本項の例では、入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスタユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
送信先機器 IP アドレス	“192.168.0.10”
送信先機器ポート番号	K30000
送信データサイズ	K448
送信データ	D3000～D3447

M110 を ON にすると、上記の条件にてソケット通信によるデータ送信をおこなうプログラムの例を示します。

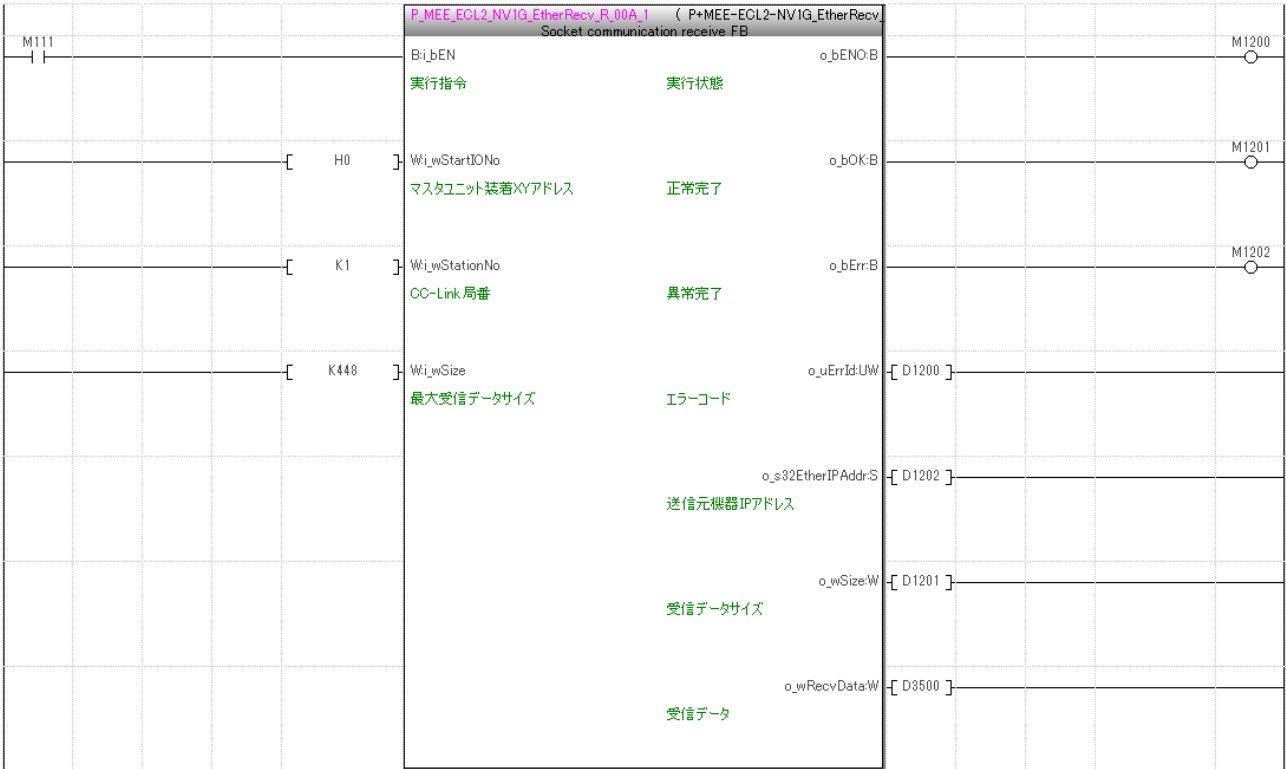


付録 1.5.12. P+MEE-ECL2-NV1G_EtherRecv_R (ソケット通信 受信)

本項の例では、入カラベルに以下の値を設定します。

入出力項目	設定値
マスユニット装着 XY アドレス	H0
CC-Link 局番	K1
最大受信データサイズ	K448

M111 を ON にすると、上記の条件にてソケット通信により受信したデータの読み出しをおこなうプログラムの例を示します。



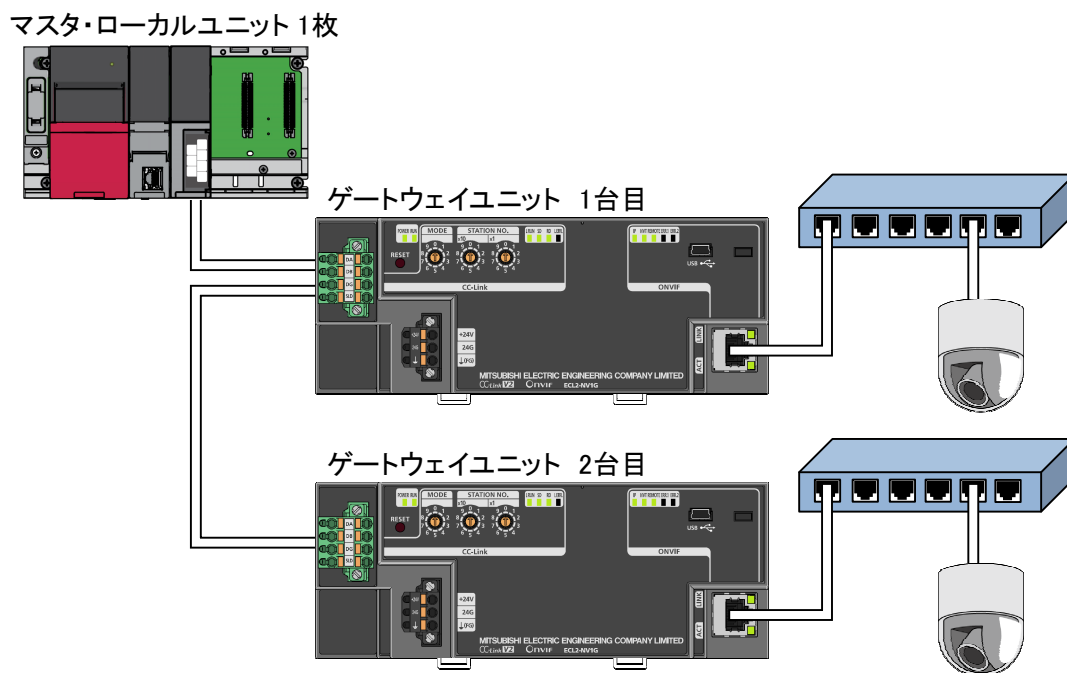
受信データ内容

デバイス	データ内容	データ型	説明	備考
D1201	受信データサイズ	ワード	受信したデータのサイズ (ワード単位)が格納されます。	—
D1202～D1231	送信元機器 IP アドレス	文字列	データ送信元機器の IP アドレス (IPv4)が格納されます。	30 ワード分必要です。
D3500～D3947	受信データ	ワード	受信したデータが格納されます。	最大 448 ワード必要 です。



付録 2. 1 枚のマス・ローカルユニットに接続された 2 台のゲートウェイユニットに FB を使用する方法

CC-Link システムマス・ローカルユニット 1 枚に 2 台以上のゲートウェイユニットを接続する場合について、説明します。



2 台以上のゲートウェイユニットで FB を使用するためには、以降の作業が必要です。

本項の例では、CC-Link システムマス・ローカルユニット 1 枚に 2 台のゲートウェイユニットを接続する場合について、説明します。

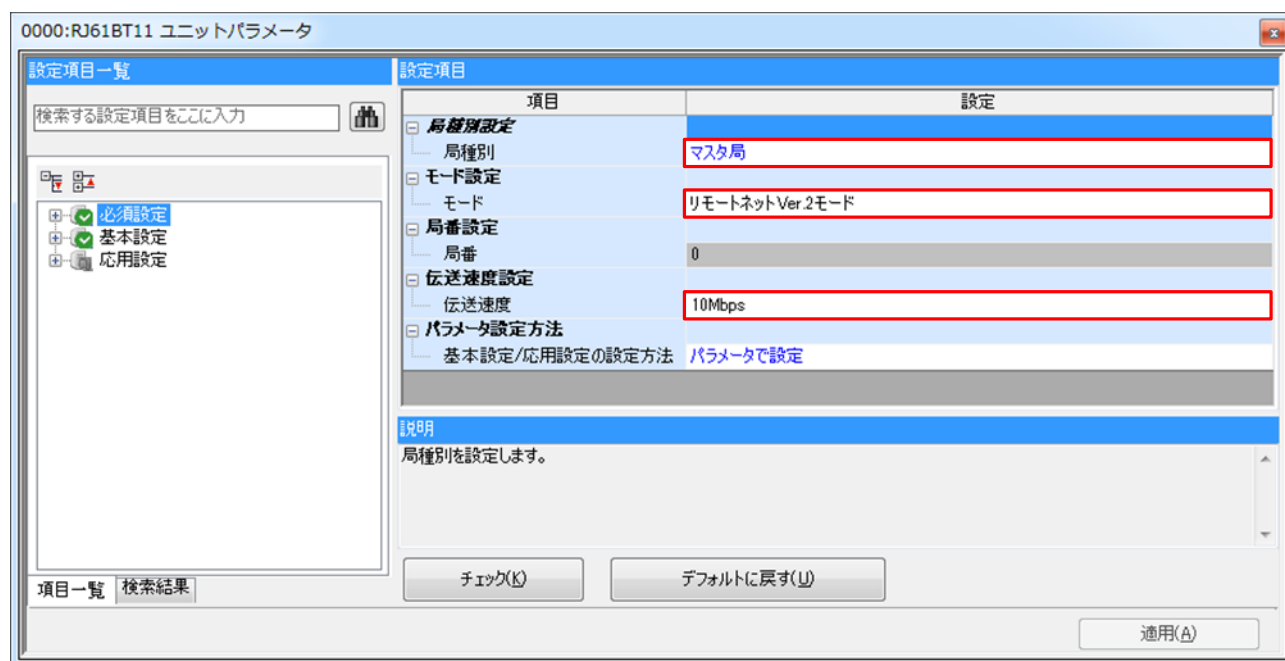


付録 2.1. 必須設定

以下のように必須設定を設定してください。

項目	内容
局種別	「マスタ局」を選択します。
モード設定(※1)	マスタ・ローカルユニットのモードを設定します。 本項の例では、「リモートネット-Ver.2 モード」を設定します。
伝送速度	CC-Link の伝送速度を設定します。 本項の例では、「10Mbps」を選択します。

※1 「リモートネット-Ver.1 モード」または「リモートネット-Ver.2 モード」を選択してください。

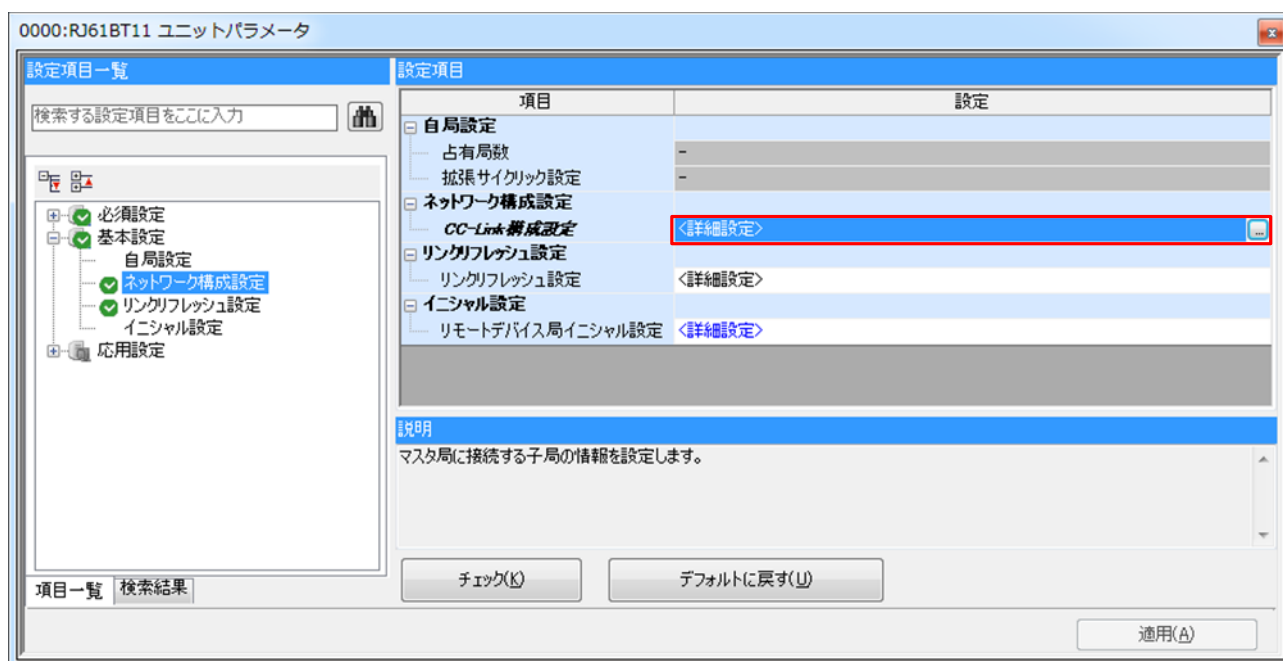


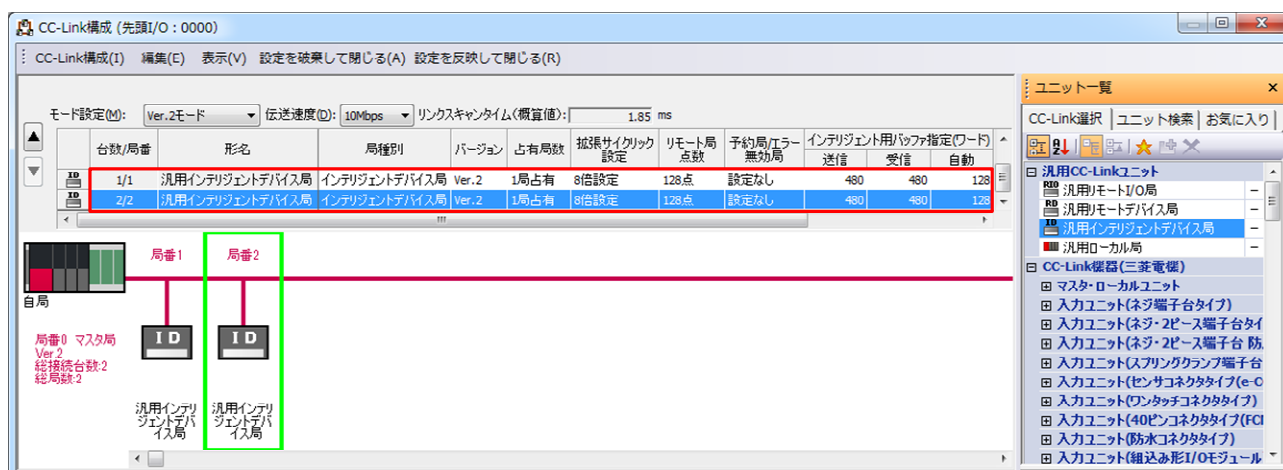
付録 2.2. 基本設定

(1) ネットワーク構成設定

以下のようにネットワーク構成設定をしてください。

項目		内容
局種別		マスタ局に接続するスレーブ局の局種別を設定します。 本項の例では、「インテリジェントデバイス局」を設定します。
バージョン		本項の例では、「Ver.2」を設定します。
占有局数		本項の例では、「1 局占有」を設定します。
拡張サイクリック設定		本項の例では、「8 倍占有」を設定します。
リモート局点数		本項の例では、「128 点」を設定します。
予約局／エラー無効局		「設定なし」を設定します。
インテリジェント用 バッファ指定 (ワード)	送信	本項の例では、「480」ワードを設定します。
	受信	本項の例では、「480」ワードを設定します。
	自動	変更不要です。(本 FB では使用しません)





(2) リンクリフレッシュ設定

以下のようにリンクリフレッシュ設定をしてください。

項目	内容
特殊リレー(SB) リフレッシュデバイス	特殊リレー(SB)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「SB」、先頭に「00000」を設定します。
特殊レジスタ(SW) リフレッシュデバイス	特殊レジスタ(SW)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「SW」、先頭に「00000」を設定します。
リモート入力(RX) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート入力(RX)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「X」、先頭に「01000」を設定します。
リモート出力(RY) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート出力(RY)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「Y」、先頭に「01000」を設定します。
リモートレジスタ(RW _r) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW _r)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「W」、先頭に「00000」を設定します。
リモートレジスタ(RW _w) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW _w)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「W」、先頭に「00400」を設定します。

※ リンク側の点数は、使用するリモート入出力・リモートレジスタを確保するように設定してください。



0000:RJ61BT11 ユニットパラメータ

設定項目一覧

検索する設定項目をここに入力

- 必須設定
- 基本設定
 - 自局設定
 - ネットワーク構成設定
 - リンクリフレッシュ設定
 - イニシャル設定
- 応用設定

設定項目

項目	設定
自局設定	
占有局数	-
拡張サイクリック設定	-
ネットワーク構成設定	
CC-Link 構成設定	<詳細設定>
リンクリフレッシュ設定	<詳細設定>
イニシャル設定	
リモートデバイス局イニシャル設定	<詳細設定>

説明

リンクリフレッシュを設定します。

チェック(K) デフォルトに戻す(D)

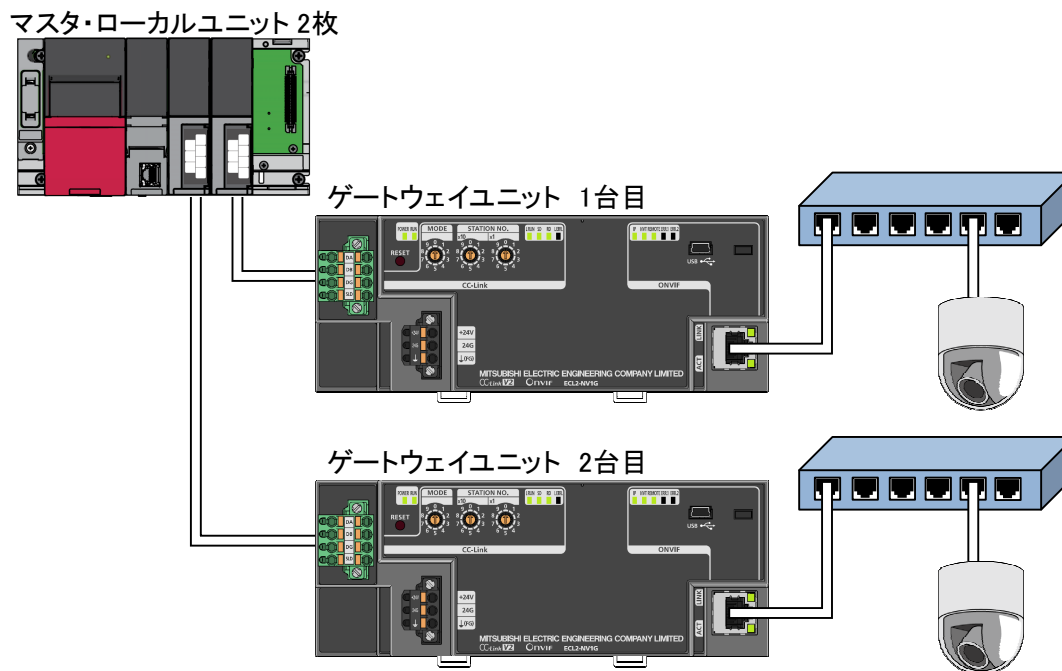
適用(A)

No.	リンク側					CPU側				
	デバイス名	点数	先頭	最終		リフレッシュ先	デバイス名	点数	先頭	最終
-	SB	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	SB	512	00000	001FF
-	SW	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	SW	512	00000	001FF
1	RX	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	X	512	01000	011FF
2	RY	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	Y	512	01000	011FF
3	RWr	256	00000	000FF	↔	指定デバイス	W	256	00000	000FF
4	RWw	256	00000	000FF	↔	指定デバイス	W	256	00400	004FF
5					↔					



付録 3. 2 枚のマスタ・ローカルユニットにそれぞれ接続されたゲートウェイユニットに FB を使用する方法

CC-Link システムマスタ・ローカルユニット 2 枚にそれぞれゲートウェイユニットを接続する場合について、説明します。



CC-Link システムマスタ・ローカルユニットを 2 枚以上使用する場合、それぞれのマスタ・ローカルユニットで使用する FB で扱う「グローバルラベル」、「デバイス」は、重複しないように設定する必要があります。

そのため、FB 内部のデバイスを置き換える必要があります、以下の 5 ステップの作業が必要です。

- 1) 必須設定
- 2) 基本設定
- 3) グローバルラベルの設定
- 4) ライブラリのコピー(複製)
- 5) デバイスの置き換え

本項の例では、CC-Link システムマスタ・ローカルユニット 2 枚に 1 台ずつゲートウェイユニットを接続する場合について、説明します。



付録 3.1. 必須設定

1 枚目のマスタ・ローカルユニットに対しては、項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」を参照し、設定してください。

2 枚目のマスタ・ローカルユニットに対して、以下のように設定してください。

項目	内容
局種別	「マスタ局」を選択します。
モード設定(※1)	マスタ・ローカルユニットのモードを設定します。 本項の例では、「リモートネット-Ver.2 モード」を設定します。
伝送速度	CC-Link の伝送速度を設定します。 本項の例では、「10Mbps」を選択します。

※1 「リモートネット-Ver.1 モード」または「リモートネット-Ver.2 モード」を選択してください。

0020:RJ61BT11 ユニットパラメータ

設定項目一覧

検索する設定項目をここに入力

必須設定
基本設定
応用設定

項目	設定
局種別設定	
局種別	マスタ局
モード設定	
モード	リモートネット Ver.2 モード
局番設定	
局番	0
伝送速度設定	
伝送速度	10Mbps
パラメータ設定方法	
基本設定/応用設定の設定方法	パラメータで設定

説明

局種別を設定します。

項目一覧 検索結果

チェック(K) デフォルトに戻す(D) 適用(A)



付録 3.2. 基本設定

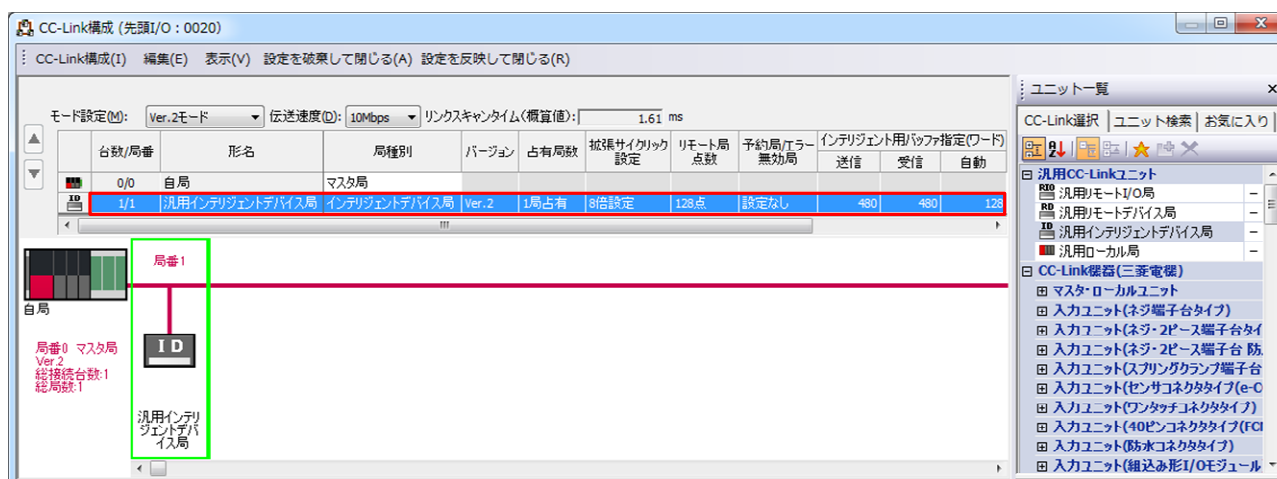
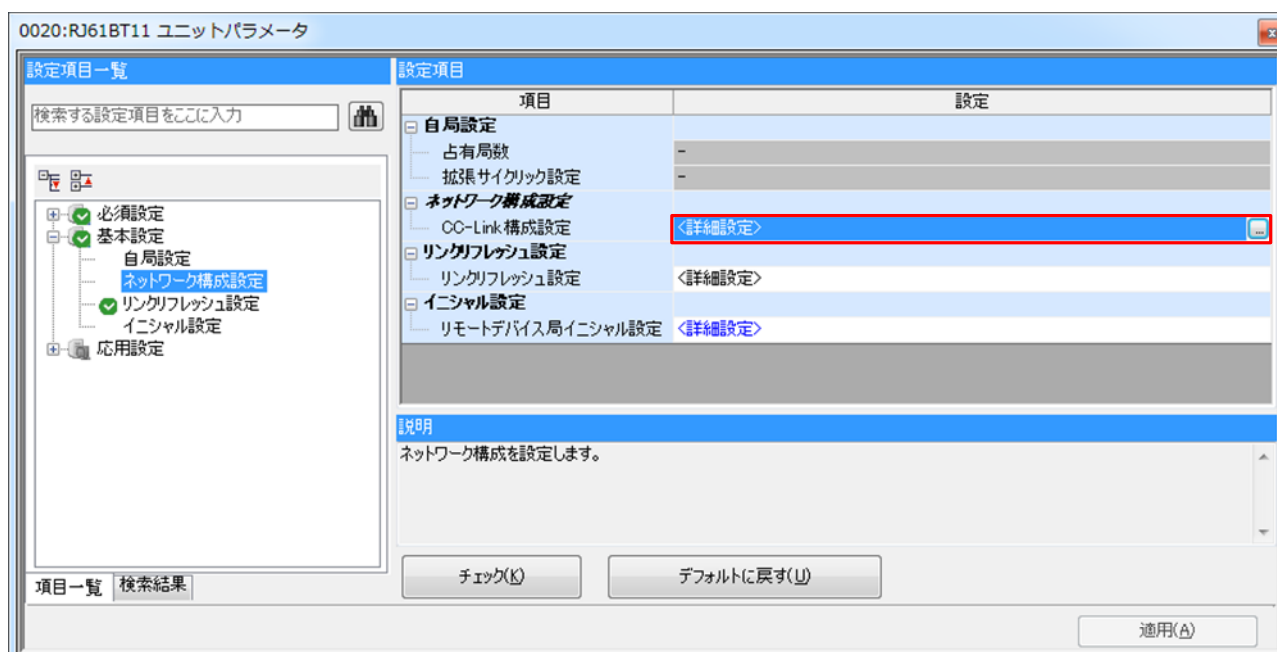
(1) ネットワーク構成設定

1 枚目のマスタ・ローカルユニットに対して、項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」を参照し、設定してください。

2 枚目のマスタ・ローカルユニットに対して、以下のように設定してください。

項目		内容
局種別		マスタ局に接続するスレーブ局の局種別を設定します。 本項の例では、「インテリジェントデバイス局」を設定します。
バージョン		本項の例では、「Ver.2」を設定します。
占有局数		本項の例では、「1 局占有」を設定します。
拡張サイクリック設定		本項の例では、「8 倍設定」を設定します。
リモート局点数		本項の例では、「128 点」を設定します。
予約局／エラー無効局		「設定なし」を設定します。
インテリジェント用 バッファ指定 (ワード)	送信	本項の例では、「480」ワードを設定します。
	受信	本項の例では、「480」ワードを設定します。
	自動	変更不要です。(本 FB では使用しません)

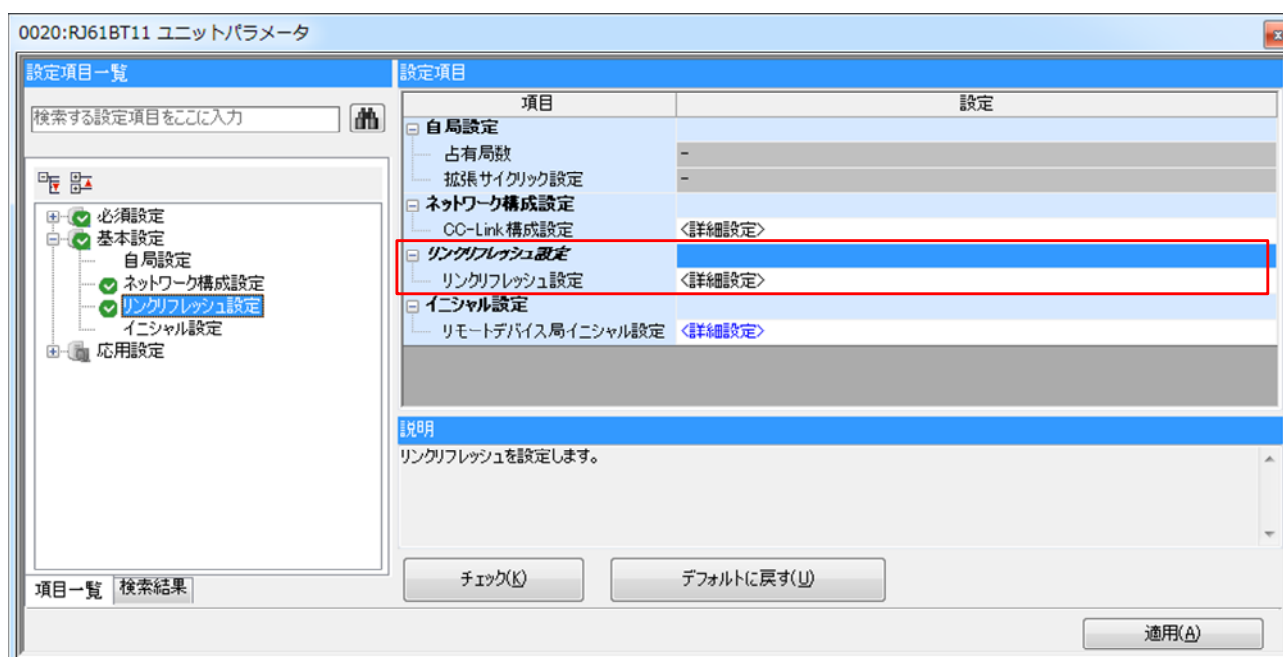




(2) リンクリフレッシュ設定

項目	内容
特殊リレー(SB) リフレッシュデバイス	特殊リレー(SB)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「SB」、先頭に「00200」を設定します。
特殊レジスタ(SW) リフレッシュデバイス	特殊レジスタ(SW)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「SW」、先頭に「00200」を設定します。
リモート入力(RX) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート入力(RX)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「X」、先頭に「01200」を設定します。
リモート出力(RY) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート出力(RY)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「Y」、先頭に「01200」を設定します。
リモートレジスタ(RW _r) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW _r)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「W」、先頭に「00100」を設定します。
リモートレジスタ(RW _w) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW _w)の先頭デバイス No.を設定します。 本項の例では、デバイス名に「W」、先頭に「00500」を設定します。

※ リンク側の点数は、使用するリモート入出力・リモートレジスタを確保するように設定してください。

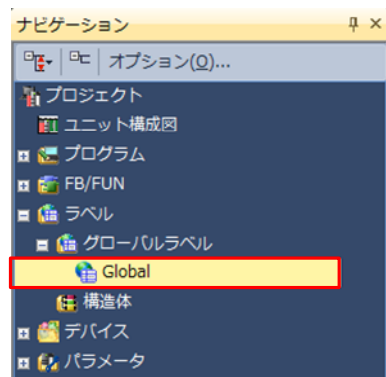


No.	リンク側					CPU側							
	デバイス名	点数	先頭	最終		リフレッシュ先	デバイス名	点数	先頭	最終			
-	SB	▼	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	▼	SB	▼	512	00200	003FF
-	SW	▼	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	▼	SW	▼	512	00200	003FF
1	RX	▼	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	▼	X	▼	512	01200	013FF
2	RY	▼	512	00000	001FF	↔	指定デバイス	▼	Y	▼	512	01200	013FF
3	RWr	▼	256	00000	000FF	↔	指定デバイス	▼	W	▼	256	00100	001FF
4	RWw	▼	256	00000	000FF	↔	指定デバイス	▼	W	▼	256	00500	005FF
5		▼				↔		▼					



付録 3.3. グローバルラベルの設定

- 1 枚目のマスタ・ローカルユニットに対しては、項「1.5. グローバルラベルの設定」を参照し、設定してください。
- 1 枚目で使用するラベル名と2 枚目で使用するラベル名が重複しない(同一名称にならない)ように定義します。
- (1) ナビゲーションウィンドウのプロジェクトタブにある「グローバルラベル — Global」を選択します。



- (2) M_RY2 リモート出力(RY)の設定をおこないます。

項目	内容
クラス	「VAR_GLOBAL」を選択します。
ラベル名	「M_RY2」を入力します。
データ型	「ビット」を選択します。
デバイス	リフレッシュパラメータに設定したリフレッシュデバイスの先頭「Y1200」に、インデックスレジスタ「Z9」を付加して入力します。本項の例では、「Y1200Z9」を入力します。

- (3) M_RWw2 リモートレジスタ(RWw)の設定をおこないます。

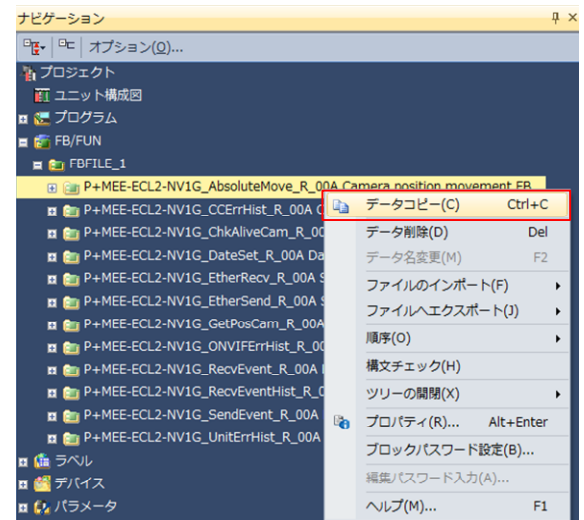
項目	内容
クラス	「VAR_GLOBAL」を選択します。
ラベル名	「M_RWw2」を入力します。
データ型	「ワード[符号付き]」を選択します。
デバイス	リフレッシュパラメータに設定したリフレッシュデバイスの先頭「W500」に、インデックスレジスタ「Z8」を付加して入力します。本項の例では、「W500Z8」を入力します。



付録 3.4. ライブラリのコピー（複製）

(1) ライブラリのコピー

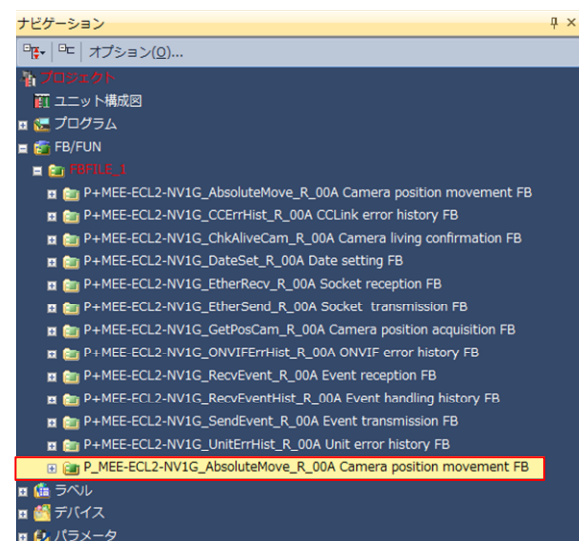
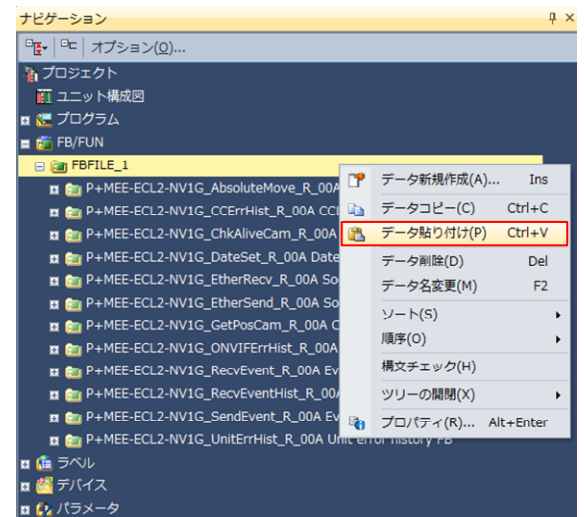
ナビゲーションウィンドウのプロジェクトタブにある 2 枚目のマスタ・ローカルユニットに必要な FB を選択して、データコピーします。



(2) ライブラリの貼り付け

ナビゲーションウィンドウのプロジェクトタブにある【FBFILE_1】に先にコピーした FB を貼り付けします。

FB 名称は自動で付けられます。



【ポイント】

※ P+. . . の“+”という文字は入力することができません。

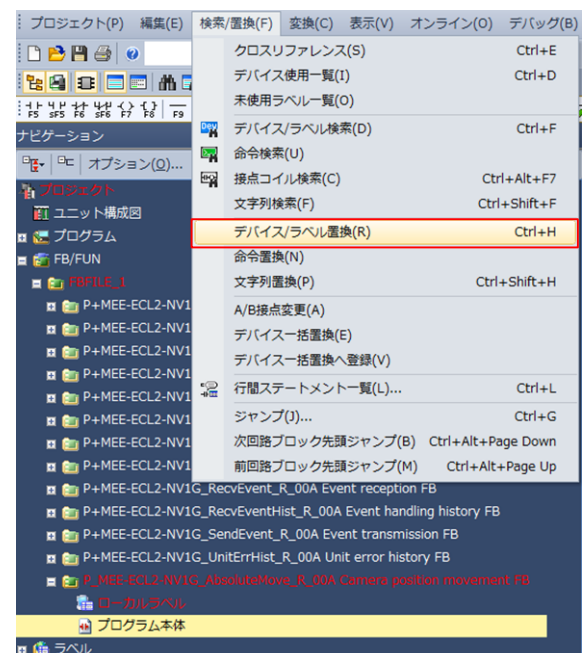
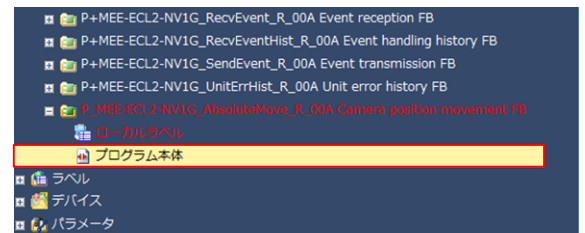
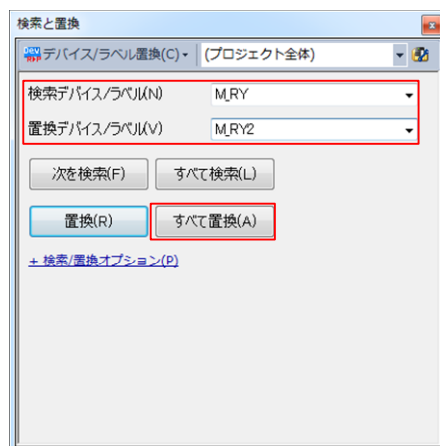


付録 3.5. デバイスの置き換え

追加した FB の「プログラム本体」を開き、メニューの「検索/置換(F)」を選択、「デバイス置換/ラベル置換(R)」を選択して、「検索と置換」画面を表示します。

検索場所を「(現在のウィンドウ)」
検索デバイスを「M_RY」
置換デバイスを「M_RY2」に指定し、「すべて置換(A)」をします。

同様に、「M_RWw」を「M_RWw2」に「すべて置換(A)」をしてください。



以上で 2 枚目のマスタ・ローカルユニットで FB を使用可能になります。

【ポイント】

- ① 2 枚目のマスタ・ローカルユニットで使用する FB が複数ある場合には付録 3.3 と付録 3.4 の手順を繰り返してください。
- ② 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する場合には、設定する「グローバルラベル名」、FB をデータ貼り付けする際の「貼り付け後データ名」、デバイスを置換する際の「置換デバイス」を他のマスタ・ローカルユニットで使用している名称と重複しないよう設定してください。

【注意事項】

MELSOFT Library のバージョンアップがあったとき、MELSOFT Library の FB は再度、ライブラリ登録をおこなうことでバージョンアップできますが、本項の手順で作成した 2 枚目以降で使用する FB は再度インポートしても、自動的にバージョンアップされません。

そのため、本項の手順で作成した FB をバージョンアップする場合には、MELSOFT Library のバージョンアップ後、再度、本項の作業をおこなうことで、バージョンアップします。



付録 4. エラーコード一覧

付録 4.1. FB エラーコード一覧

エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H100	CC-Link 局番設定が 1～64 の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H101	FB に指定している CC-Link 局番とネットワーク構成設定の局番指定が異なります。	以下の設定内容を確認してください。 ・ネットワーク構成設定 項「1.4. CC-Link システム マスタ・ローカルユニットの設定」の「(2) ①ネットワーク構成設定」を参照してください。 ・i_wStationNo(CC-Link 局番)の設定値
H102	カメラ番号が 1～16 または 1～8(登録可能カメラ台数 8 台時)の範囲外です。	設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H103	カメラ位置番号が 0～99 の範囲外です。	
H104	パンチルトスピードが 1～10 の範囲外です。	
H105	ズームスピードが 1～10 の範囲外です。	
H106	イベント送信のアクセスコードが H0B, H0C 以外です。	
H107	イベント受信番号が 1～16 または 1～8(登録可能カメラ台数 8 台時)の範囲外です。	
H108	エラー履歴読み出し開始位置が 1～50 の範囲外です。	
H109	エラー履歴読み出し点数が 1～50 の範囲外です。	
H10A	エラー履歴読み出し開始位置と読み出し点数の合計が 51 を超えています。	
H10B	イベントハンドリング履歴読み出し開始位置が 1～50 の範囲外です。	
H10C	イベントハンドリング履歴読み出し点数が 1～25 の範囲外です。	
H10D	イベントハンドリング履歴読み出し開始位置と読み出し点数の合計が 51 を超えています。	
H10E	送信先機器ポート番号が 1～32767 の範囲外です。	
H10F	送信データサイズが 1～448 ワードの範囲外です。	



エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H110	最大受信データサイズが 1～448 ワードの範囲外です。	設定を見直した後、再度 FB を実行してください。
H111	最大受信データサイズで設定した値より、大きいデータを受信しました。	最大受信データサイズに受信するデータ以上の値を設定してください。
H200	ゲートウェイユニットにエラーが発生しています。	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
H201	ゲートウェイユニットが READY ではありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・電源投入後、ゲートウェイユニットの準備が完了してから、再度 FB を実行してください。 ・IP LED が赤点灯の場合、IP アドレスを DHCP サーバから取得できていません。 ネットワークの設定、接続を確認してください。
H202	カメラ警告が ON しています。	ゲートウェイ設定ツールのメンテナンス画面にてエラー内容を確認してください。
H203	カメラが Busy 状態になっています。	しばらくしてから、再度 FB を実行してください。 同じカメラ番号を指定しているカメラ位置移動 FB の実行指令を OFF してください。
H204	トランジェント伝送でエラーが発生しました。	ゲートウェイユニットと CC-Link システム(シーケンサ)の接続、設定を確認した後、再度 FB を実行してください。
H205	リモート READY が ON していません。	ゲートウェイユニットの CC-Link バージョン、占有局数、拡張サイクリック設定がマスタユニットの CC-Link システム設定と一致していることを確認してください。また、局番、伝送速度が正しく設定されていることを確認してください。
H400	<p>実行中に i_bEN(実行指令)が OFF にされたため、実行を中止しました。</p> <p>※ 1 スキャンのみ出力</p>	再度 FB を実行する場合は、o_bOK(正常完了)、o_bErr(異常完了)がともに OFF していることを確認した上、i_bEN(実行指令)を ON してください。



付録 4.2. 機器エラーコード一覧

エラーコード (16 進数)	内容	処置方法
H300～H341	IP アドレスエラー	CC-Link システム／ONVIF ネットワーク対応 ゲートウェイユニット ECL2-NV1G ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照して ください。
H400～H441	データ送信エラー	
H500～H5FF	NVT 情報取得エラー	
H600～H6FF	カメラ警告	



商標

Microsoft, Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
Ethernet は、富士ゼロックス株式会社の日本における登録商標です。
ONVIF は、ONVIF Inc.の商標です。
MELSEC, MELSOFT, CC-Link は、三菱電機株式会社の登録商標です。
本文中における会社名、システム名、製品名などは各社の登録商標または商標です。
本文中で、商標記号(® , ™)は明記していない場合があります。





名古屋事業所 営業部

〒486-0906 愛知県春日井市下屋敷町字下屋敷139
TEL. 0568-36-2096 FAX. 0568-36-2376

技術お問い合わせ

名古屋事業所 技術サポートセンター

TEL. 0568-36-2068 FAX. 0568-36-2045
受付／9：00～12：00, 13：00～17：00 月曜～金曜
(土・日・祝祭日, 春期・夏期・年末年始の休日を除く通常業務日)

共同開発パートナー

図研エルミック株式会社 ゲートウェイ本部

〒222-8505 横浜市港北区新横浜3-1-1 図研新横浜ビル2F
TEL. 045-624-8002 FAX. 045-476-1102
受付／9：00～12：00, 13：00～17：00 月曜～金曜
(土・日・祝祭日, 春期・夏期・年末年始の休日を除く通常業務日)